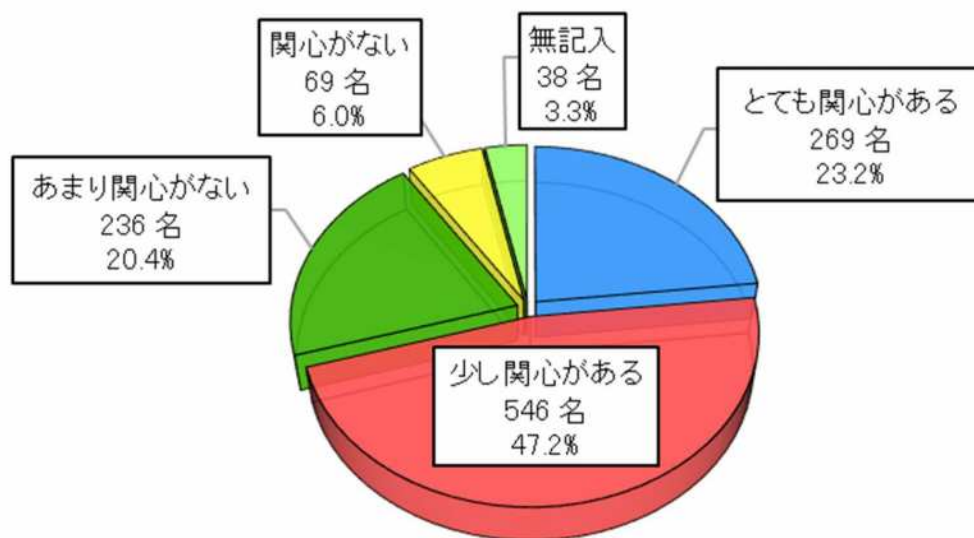


## 第4章 結果の概要

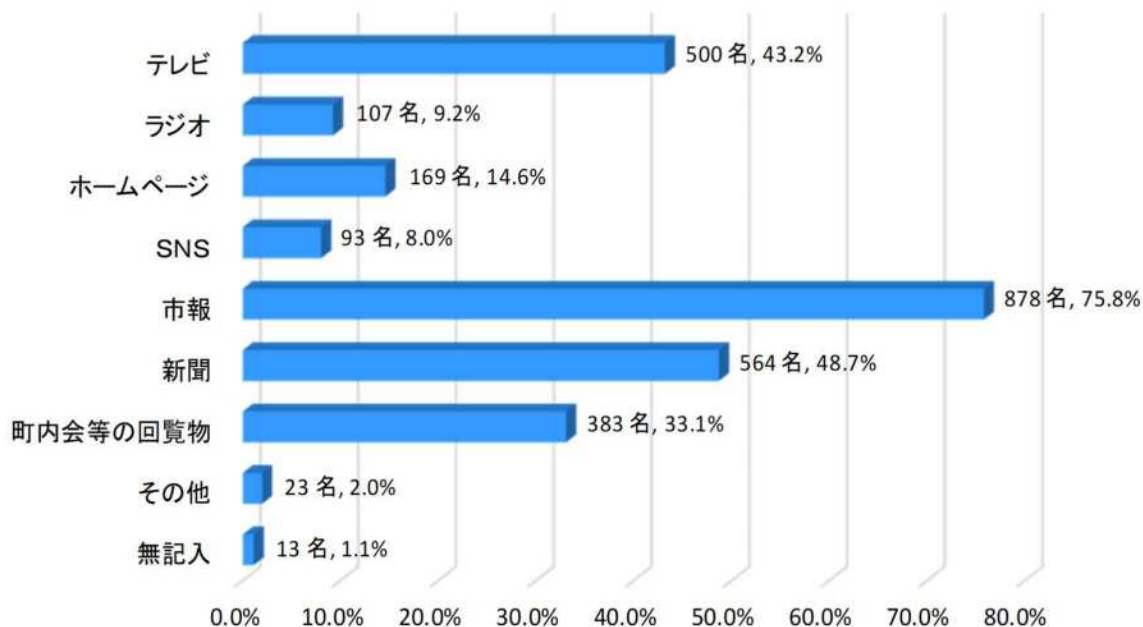
※構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

### 1 本市の市政への関心度について

問1 石巻市が行うことへの関心について1つ選んでください。



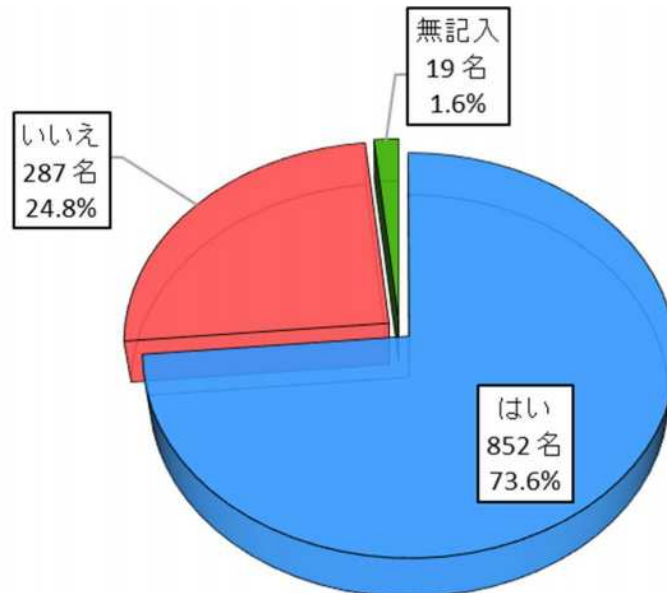
問2 市政に関する情報の入手先は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。



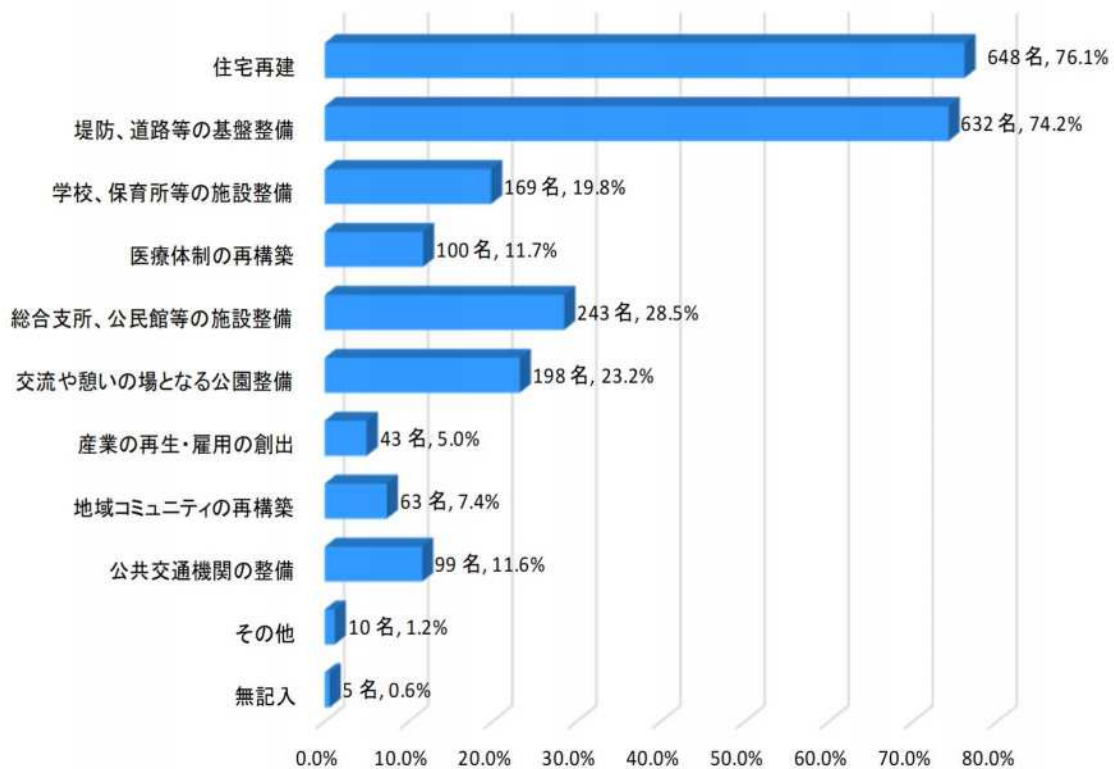
市政への関心について、「とともに関心がある」、「少し関心がある」と回答した方が、合計70.4%を占めています。一方で、26.4%の方が「関心がない」、「あまり関心がない」と回答しています。市政に関心を持ってもらうために、情報発信に一層取り組んでいく必要があると考えます。

## 2 東日本大震災に伴う復旧・復興事業について

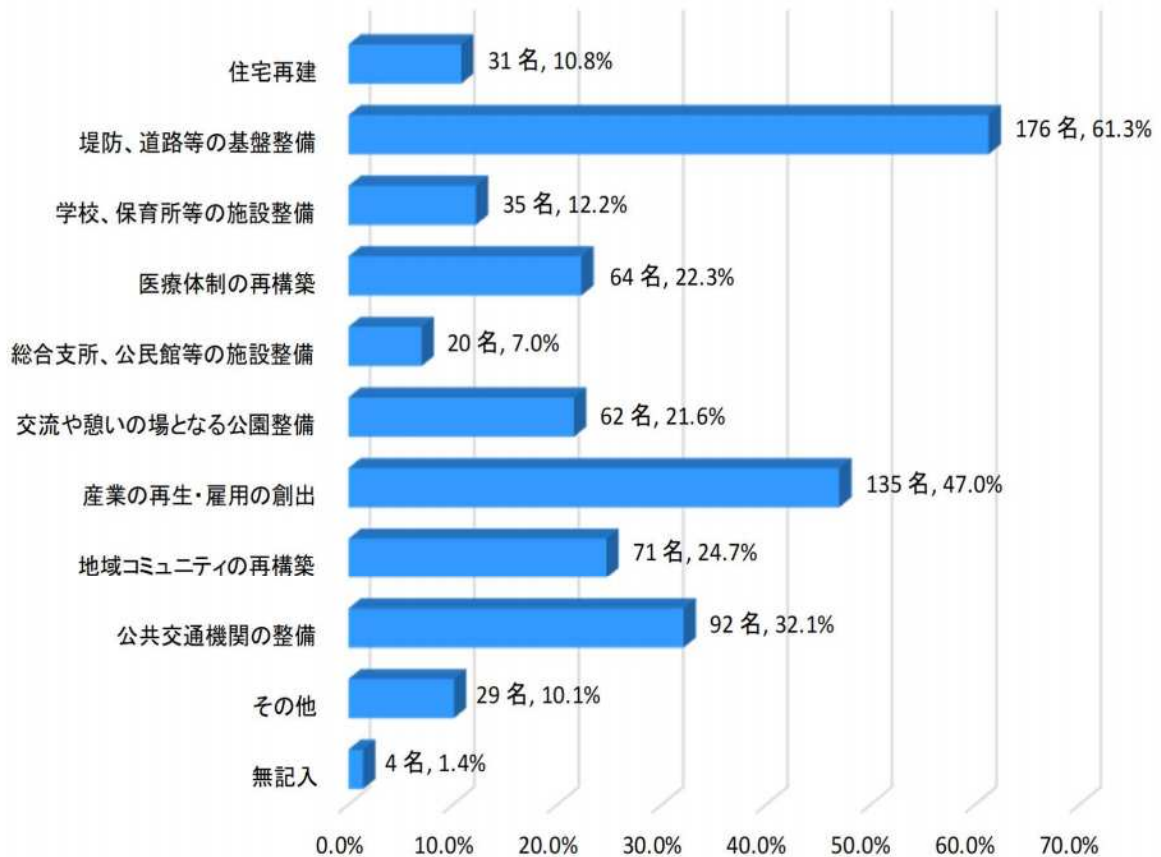
問3 石巻市の復旧・復興は、進んでいると感じていますか。1つ選んでください。



問4 問3で「1. はい」と答えた方にお聞きします。  
進んでいると感じている主な事業は何ですか。  
当てはまるものをすべて選んでください。



問5 問3で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。  
遅れていると感じている主な事業は何ですか。  
当てはまるものをすべて選んでください。



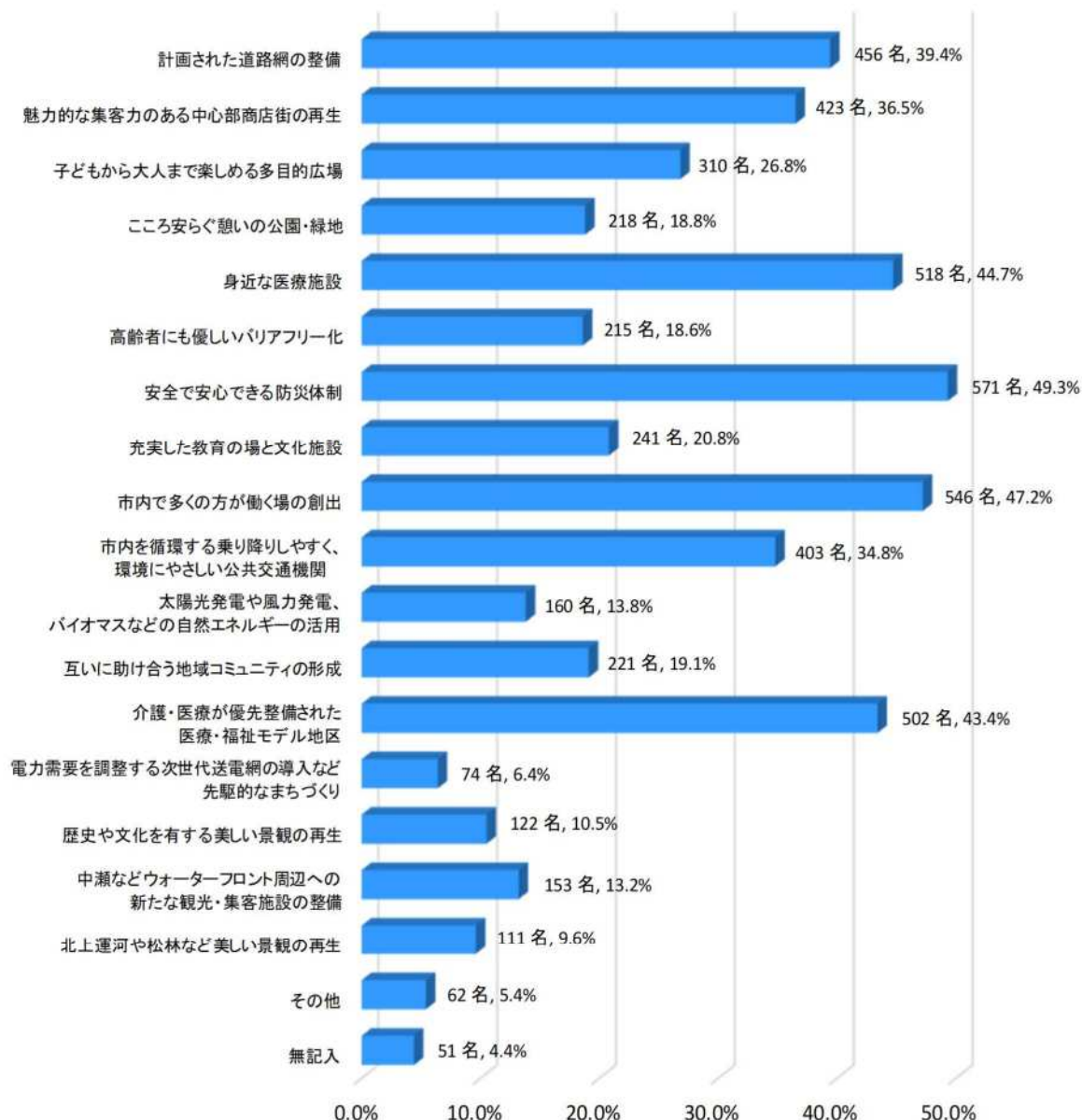
復旧・復興は「進んでいる」と回答した方が、昨年から5.5ポイント増加し、「進んでいない」と回答した方は、3.8ポイント減少しました。

進んでいると感じている主な理由としては、昨年と同様「住宅再建」を挙げる方が最も多く、次いで「堤防、道路等の基盤整備」を挙げる方が多く、昨年から5.2ポイント増加しています。

一方で、遅れていると感じている事業において、昨年から15.0ポイント減少したものの「堤防、道路等の基盤整備」と回答した方の割合が最も高く、次いで「産業の再生・雇用の創出」の割合が高くなっています。また、「総合支所、公民館等の施設整備」と「交流や憩いの場となる公園整備」を除き、遅れていると回答した方の割合が昨年より増加しています。道路、公共施設等の復興が進むにつれて、他の様々な事業に目が向くようになったと考えられます。

今後も道路等基盤整備の早期完了に努めるほか、産業の再生・雇用の創出等、需要が高まっている事業に取り組んでいく必要があると考えます。

問6 石巻市の将来の再生・発展のために望むまちづくりについてお聞きます。  
特に重要と思うものを5つ選んでください。



将来の再生・発展のために望むまちづくりについては、昨年と同様に「安全で安心できる防災体制」、「市内で多くの方が働く場の創出」、「身近な医療施設」、「介護・医療が優先整備された医療・福祉モデル地区」を望む声が多くなっています。「計画された道路網の整備」も4割近くの方が回答していますが、昨年から4.5ポイント減少しています。一番回答の多かった「安全で安心できる防災体制」は、大きくポイントが増加した昨年よりもさらに増加し、50%近くの方が回答したことから、重要と考えられていることがわかります。

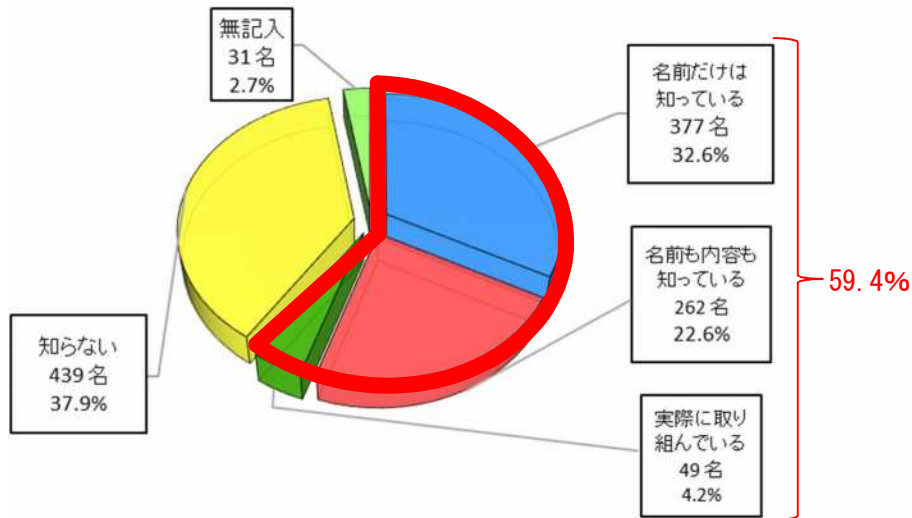
自由記述では、公共交通や子育て支援の充実を望む声が多く見られました。

### 3 エスティーゼエス SDGs (持続可能な開発目標) について

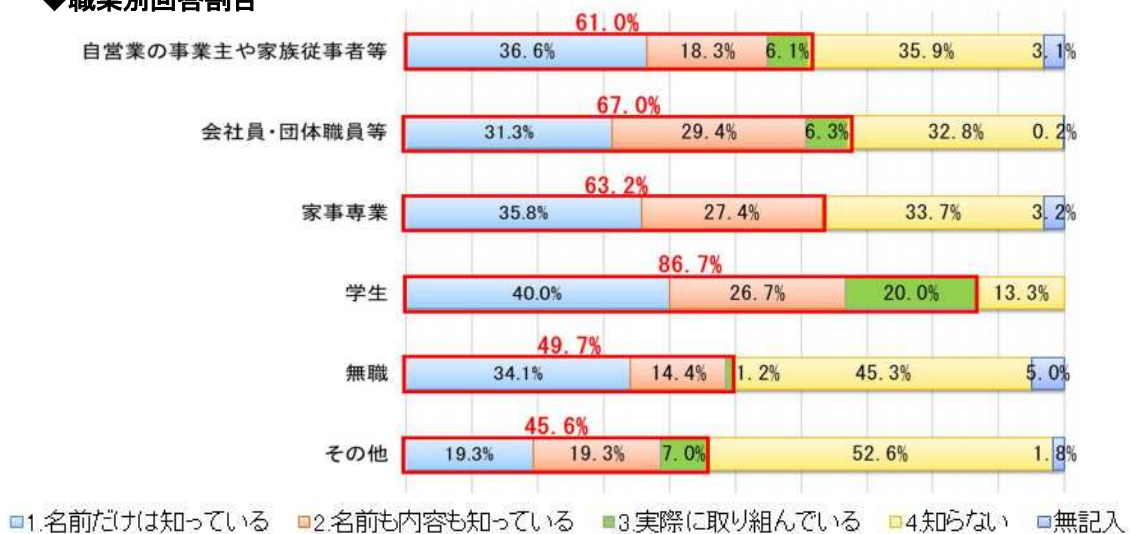
問7 市は、SDGs (持続可能な開発目標) を推進しており、昨年7月に国から「SDGs未来都市」に選定され、SDGsの達成に向けた取組や普及啓発を進めています。

「SDGs」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。

#### ◆総計



#### ◆職業別回答割合



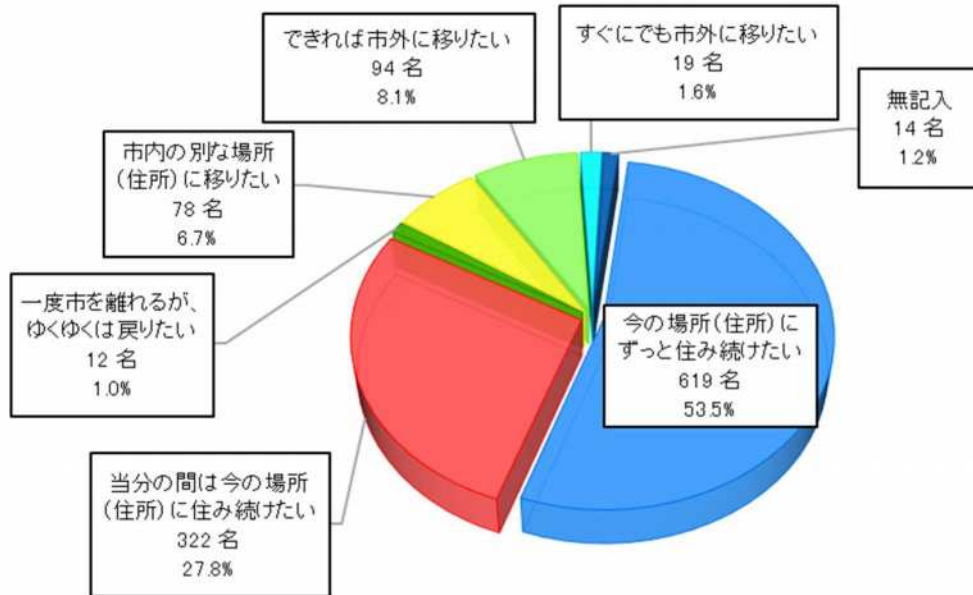
SDGsという言葉を「名前だけは知っている」が32.6% (前年比14.3ポイント増)、「名前も内容も知っている」が22.6% (前年比15.8ポイント増)、「実際に取り組んでいる」が4.2% (前年比2.8ポイント増) となっており、3項目の合計は59.4% (前年比32.9ポイント増) となり、認知度の大幅な向上が見られました。

職業別の回答割合では、3項目の合計について「学生」が86.7% (前年比30.2ポイント増) と極めて高く、「自営業」、「会社員等」、「家事専業」はいずれも60%台となり、前年比はいずれも30ポイント以上の増となりました。

しかし、「実際に取り組んでいる」については、「学生」は20.0% (前年比20.0ポイント増) と大幅に向上したものの、「家事専業」は前年と同様に0%となっていることから、SDGsの普及啓発を進める上で、SDGsは身近なものであり、日常生活の中で誰でも取り組めるものであることなどについて、より一層分かりやすく伝える工夫が必要であることが分かりました。

## 4 石巻市での居住について

問8 あなたは今後も石巻市に住み続けたいと思いますか。1つ選んでください。



石巻市での居住継続意向については、「今の場所（住所）にずっと住み続けたい」が53.5%となり、前回調査より3.8ポイントの増加となった。

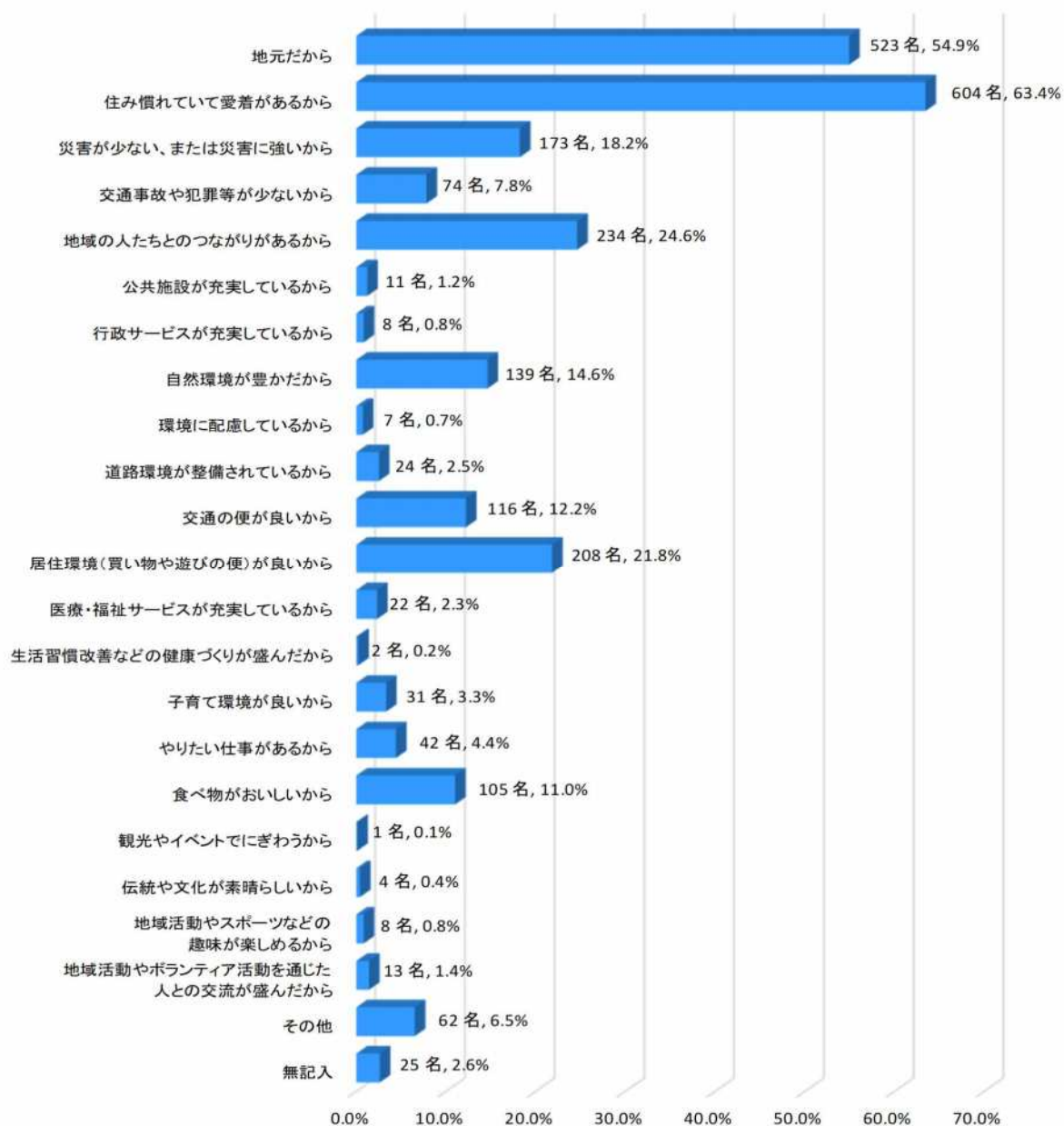
一方、市内での居住を希望する4つの選択肢（「今の場所（住所）にずっと住み続けたい」、「当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」、「市内の別な場所（住所）に移りたい」）の合計は89.0%となっており、前回調査より0.4ポイントの減となっている。

住み慣れた地域で暮らし続けられるようまちの機能の一層の充実を図るとともに、豊かな地域資源を生かした魅力的な地域の形成に努めるなど、住み続けたいと思われるまちづくりを推進する必要があります。

問9 問8で「1. 今の場所（住所）にずっと住み続けたい」「2. 当分の間は今の場所（住所）に住み続けたい」「3. 一度市を離れるが、ゆくゆくは戻りたい」と回答した方にお聞きします。

今の場所（住所）に住みたい・住み続けたい理由は何ですか。

当てはまるものを3つまで選んでください。

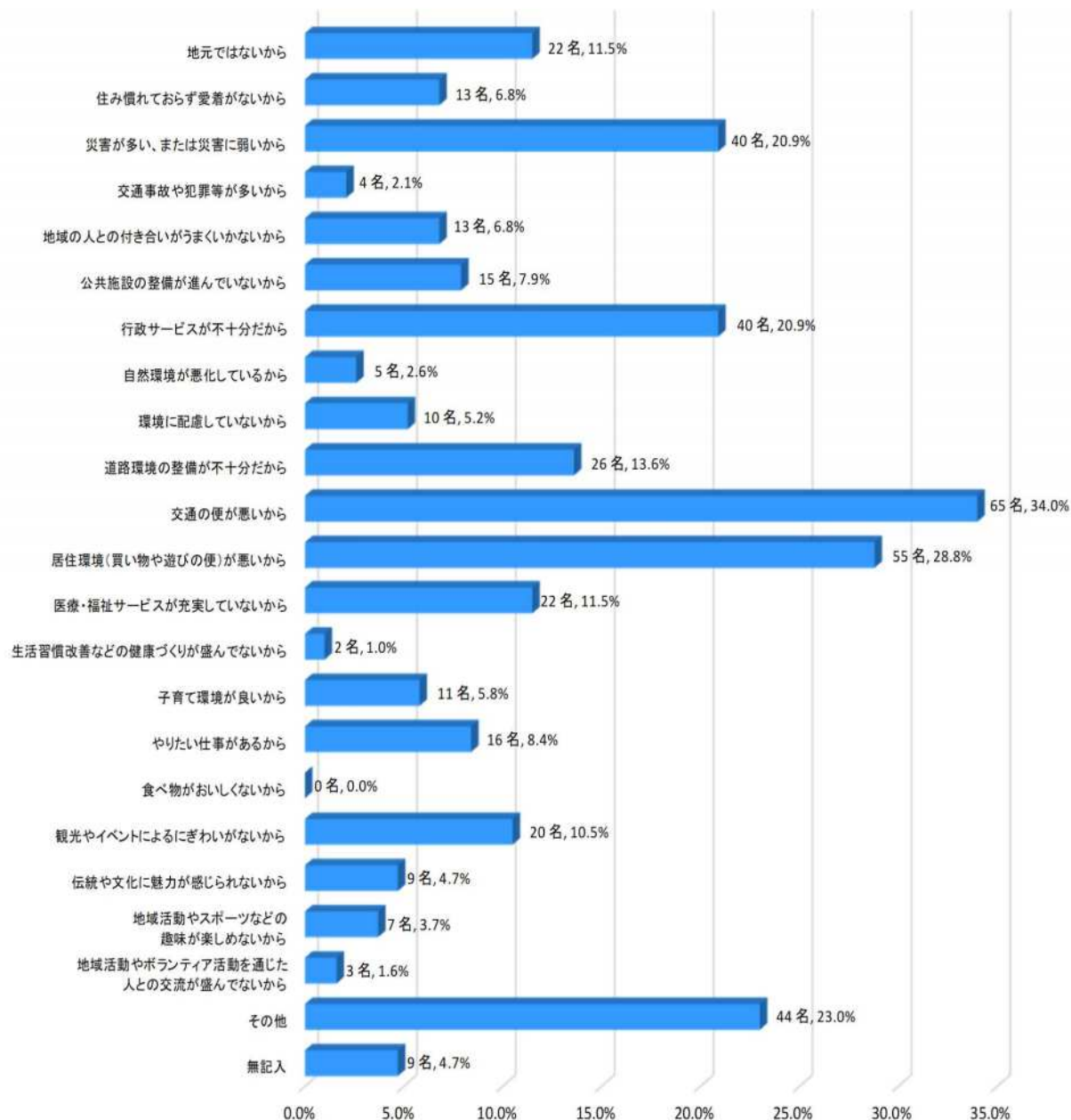


石巻市に住み続けたい理由としては、「住み慣れていて愛着があるから」が63.4%と最も高くなり、次いで「地元だから」が54.9%となりました。

そのほか、回答割合が高かった項目としては、「災害が少ない、または災害に強いから」、「地域の人たちとのつながりがあるから」、「自然環境が豊かだから」、「交通の便が良いから」、「居住環境（買い物や遊びの便）が良いから」、「食べ物がおいしいから」が10%を超えています。

低かった項目としては、「行政サービスが充実しているから」、「環境に配慮しているから」、「生活習慣改善などの健康づくりが盛んだから」、「観光やイベントでにぎわうから」、「伝統や文化が素晴らしいから」、「地域活動やスポーツなどの趣味が楽しめるから」がいずれも1%未満となりました。

問10 問8で「4. 市内の別な場所（住所）に移りたい」「5. できれば市外に移りたい」「6. すぐにでも市外に移りたい」と回答した方にお聞きします。市内の別な場所（住所）または市外に移り住みたい理由は何ですか。当てはまるものを3つまで選んでください。



市外に移り住みたい理由としては、「交通の便が悪いから」が34.0%と最も高くなり、次いで「居住環境（買い物や遊びの便）が悪いから」が28.8%となりました。

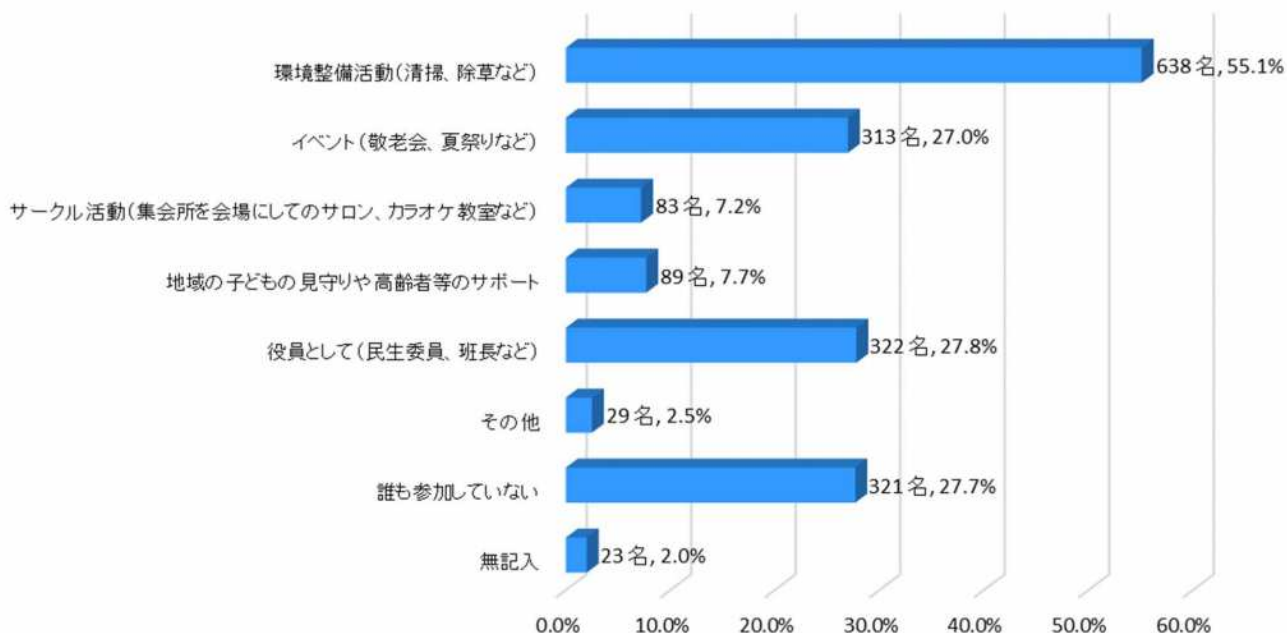
そのほか、回答割合が高かった項目としては、「地元ではないから」、「災害が多い、または災害に弱いから」、「行政サービスが不十分だから」、「道路環境の整備が不十分だから」、「医療・福祉サービスが充実していないから」、「観光やイベントによるにぎわいが少ないから」が10%を超えています。

市外に移り住みたい理由として回答割合が高かった項目については、改善を図っていく必要がある項目として関係各課と情報共有し、住み続けたいと思えるまちづくりを目指し効果的な取組を検討していく必要があります。

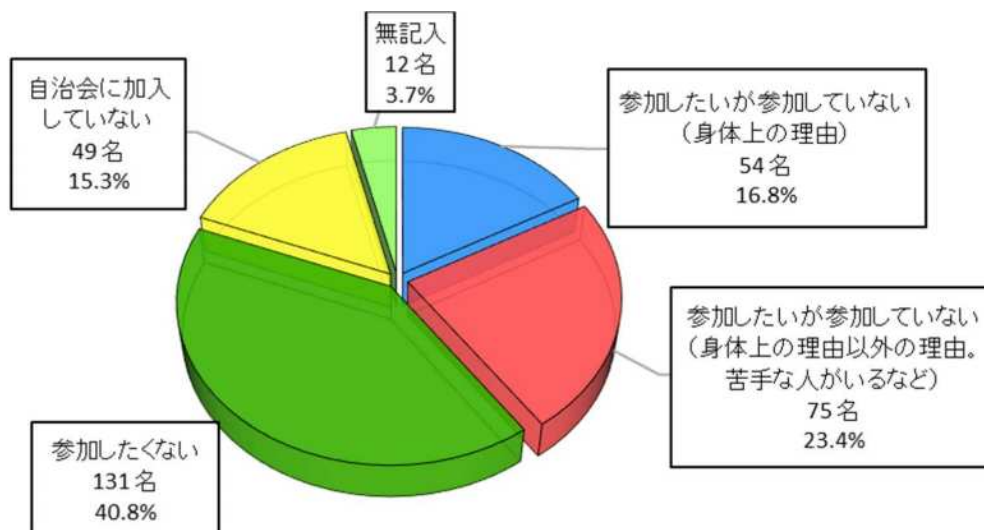


## 5 地域の自治会（町内会）活動への参加状況について

問11 あなたの世帯では、地域の自治会（町内会）が主催する活動にどのように関わっていますか。当てはまるものをすべて選んでください。



問12 問11で「7. 誰も参加していない」を選んだ方にお聞きします。「7. 誰も参加していない」を選んだ理由を1つ選んでください。

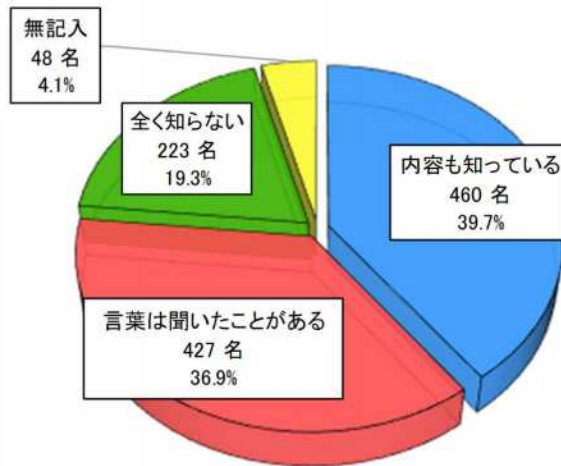


地域の自治会活動については「その他」、「誰も参加していない」、「無記入」を除いた67.8%以上が何かしらの活動に参加していると回答しており、高い数値となっています。

また、地域の自治会活動について「誰も参加していない」と回答した方のうち、「参加したくない」という回答が40.8%と最も多く、続いて「参加したいが参加していない(身体上の理由及び身体上の理由以外の理由)」が40.2%となっています。住民に地域の自治会活動へ更に参加をしてもらえるよう、自治会活動内容の周知や必要性について理解を促していく必要があると考えられます。

## 6 男女共同参画について

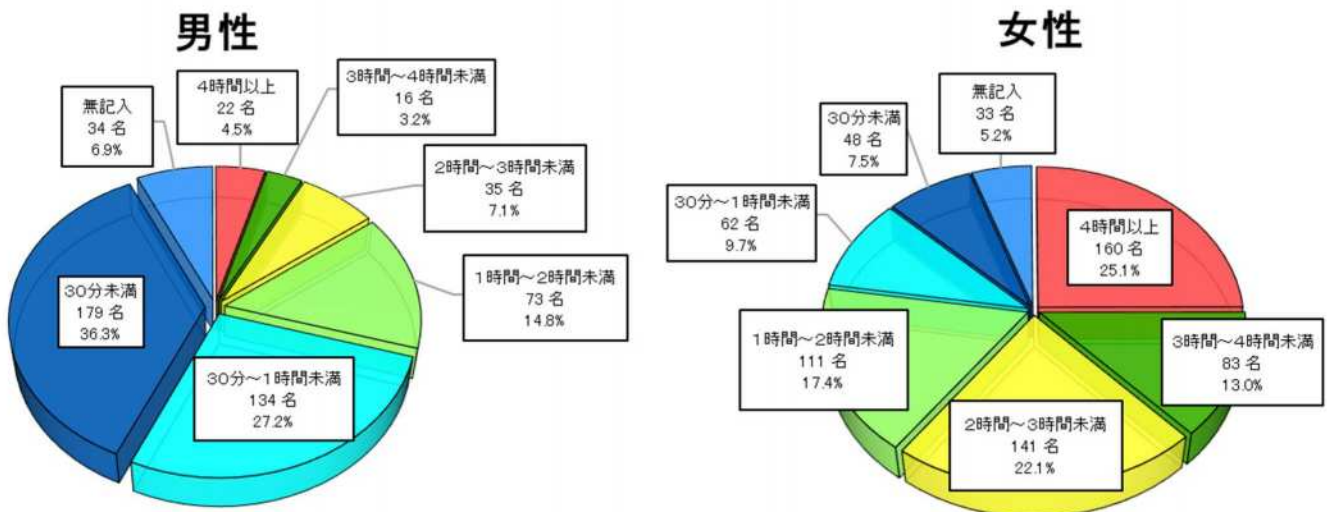
問13 「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。1つ選んでください。



「男女共同参画社会」という言葉と内容について、どちらも知っている割合は39.7%となり、認知度は4割に届きませんでした。「言葉は聞いたことがある」は36.9%、「全く知らない」は19.3%となり、内容や言葉自体の認知度が低いことがうかがえます。

認知度の向上を目指すために、男女共同参画社会についての周知啓発が必要であると考えられます。

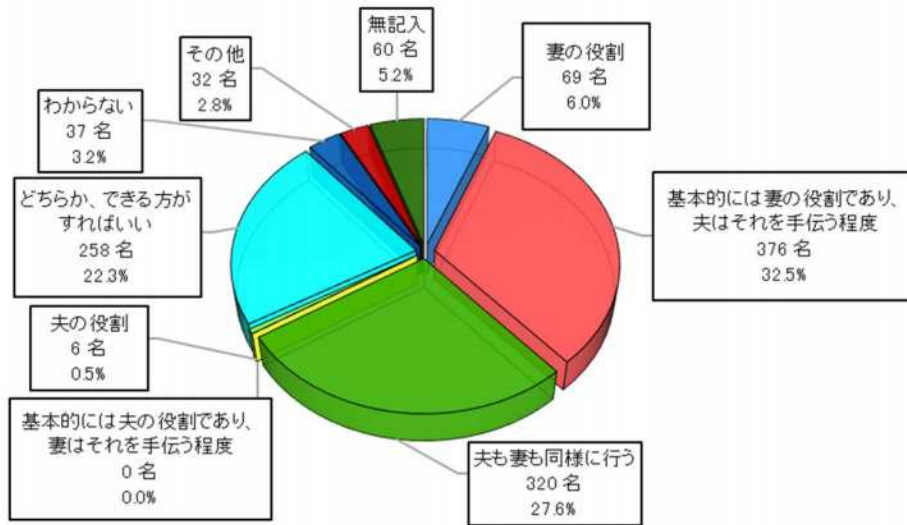
問14 あなたの1日の家事（介護・看護・育児含む。）時間はどのくらいですか。1つ選んでください。



1日の家事時間について、「30分未満」との回答は男性が36.3%に対し、女性は7.5%となっています。また、「3時間以上」との回答は、男性が7.7%に対し、女性は38.1%となり、男性と女性で1日の家事時間には大きな差があることがうかがえます。

このことから、家事は女性が行うものという考えが未だ根強く残っており、結果として家事時間の偏りに表れているのではないかと考えられます。

問 1 5 家庭での育児や家事は、誰の役割だと思いますか。1つ選んでください。



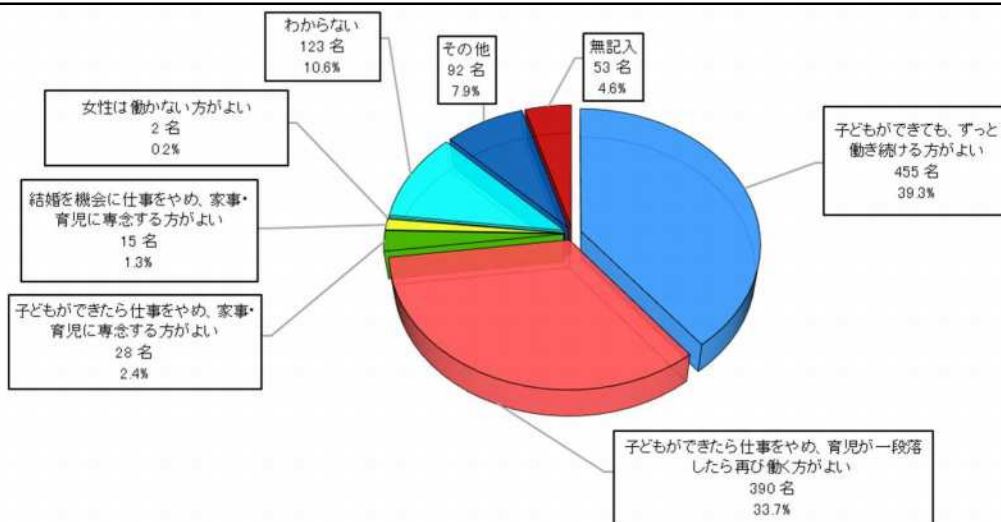
家庭での育児や家事は、「基本的には妻の役割であり、夫はそれを手伝う程度」という回答が32.5%となっており、固定的役割分担意識（男性・女性という性別を理由に役割を固定的に分けること。）も根強く残っていることがうかがえます。

一方で、「どちらか、できる方がすればいい」が22.3%、「夫も妻も同様に行う」が27.6%と、性別に関係なく家事を行うという考えも見られました。

今後は後者のように、性別を問わず役割を決めることの意識を醸成する必要があると考えられます。

問 1 6 平成27年度には「女性活躍推進法」が施行され、石巻市でも女性活躍のための環境整備に向けて取組を実施しています。

女性が働くことについて、あなたはどのように思いますか。1つ選んでください。



女性が働くことについては、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」との回答が最も多く、39.3%となっています。また、「子どもができたらずっと働き続ける方がよい」との回答も33.7%となっています。

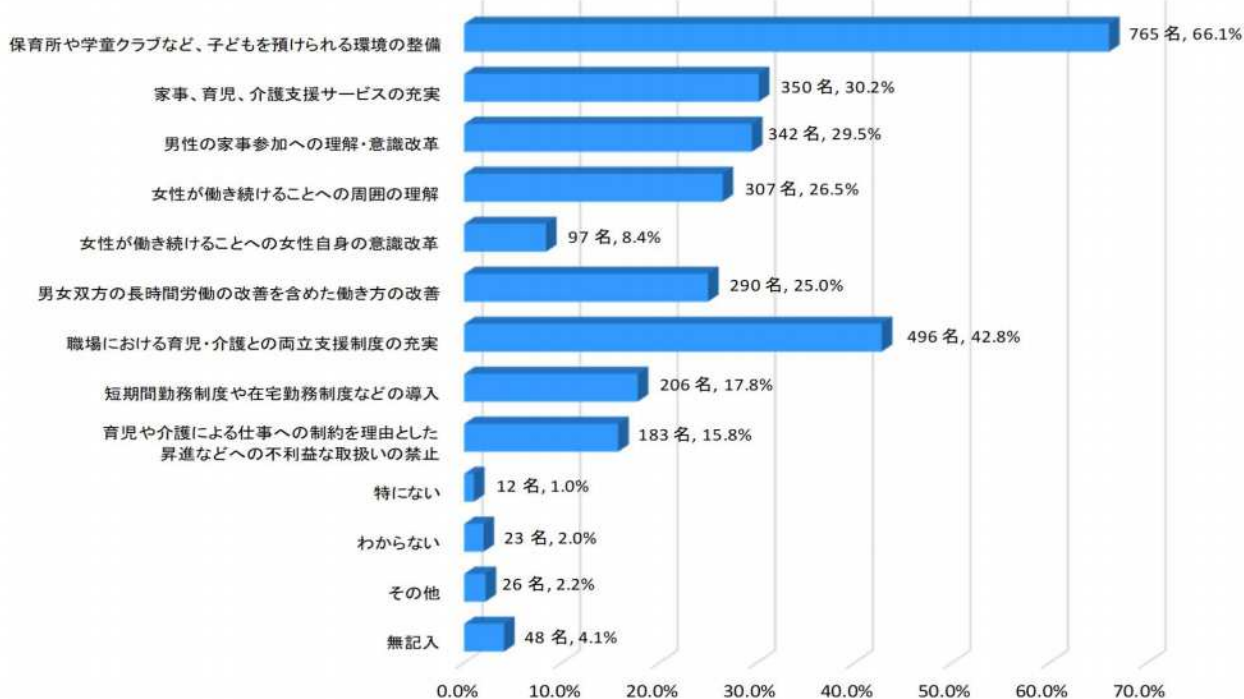
また、「女性はやめた方がよい」との回答は0.2%、「子どもができたらずっと働き続ける方がよい」との回答は2.4%と、女性が働くことについて否定的な考えは3%にも満たないことから、女性の就業については多数の方が賛成していることがうかがえます。

問17 女性の活躍を推進するためには、家族・社会・職場などからどのような支援が必要だと思いますか。特にあてはまると思うものを2つ選んでください。



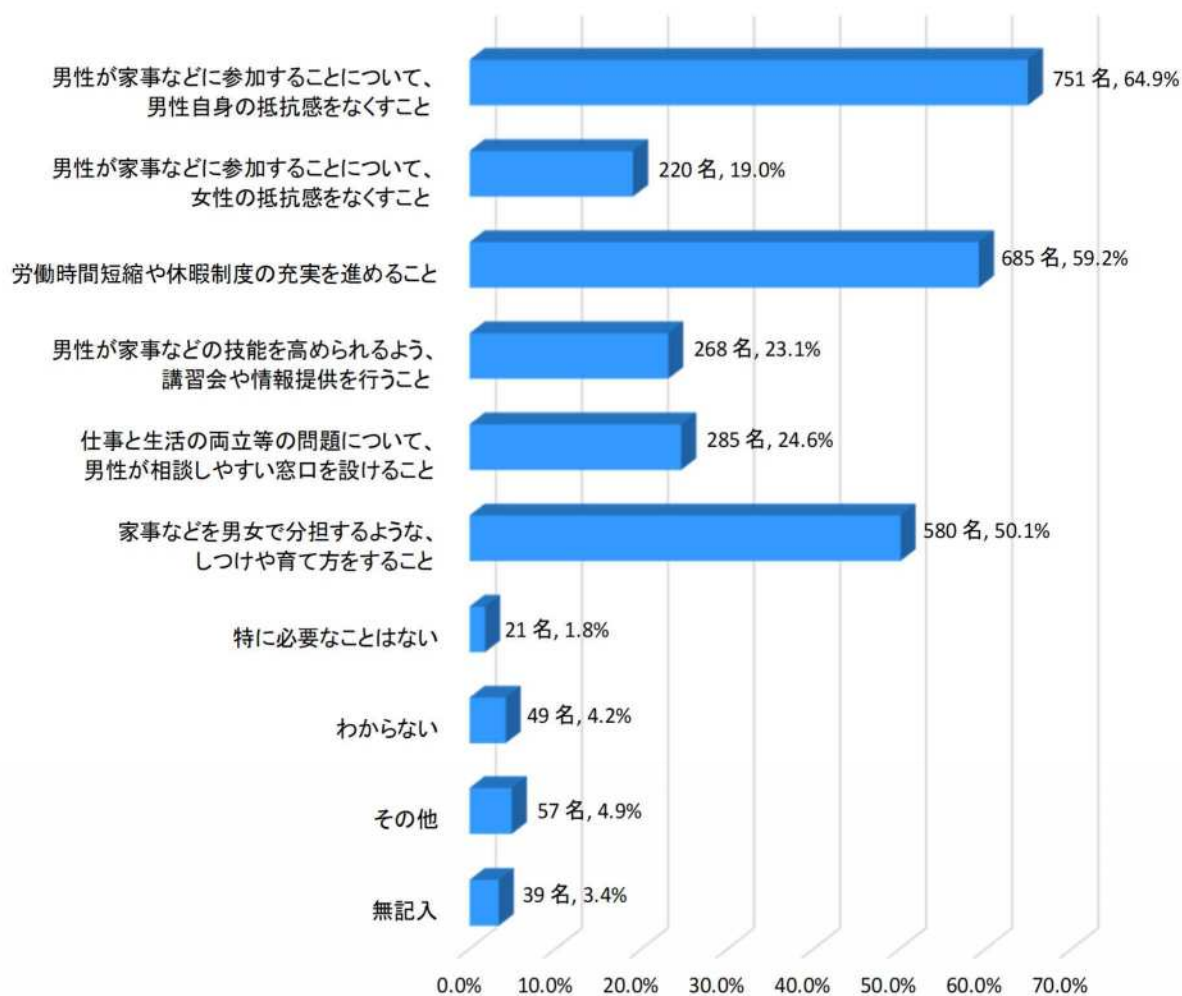
「保育施設・介護施設・家事などのサービスの充実」との回答が44.0%、「男性の家事参加への理解・意識改革」が33.6%と、女性が活動に費やせる時間を確保するための支援に加え、「女性が働き続けることへの周囲の理解」が31.4%、「労働時間の短縮や休暇制度の充実」32.4%と、心理面や環境面での支援についても回答がありました。このことから、女性の活躍を推進するためには多方面からの支援が必要であることがうかがえます。

問18 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。特にあてはまると思うものを3つ選んでください。



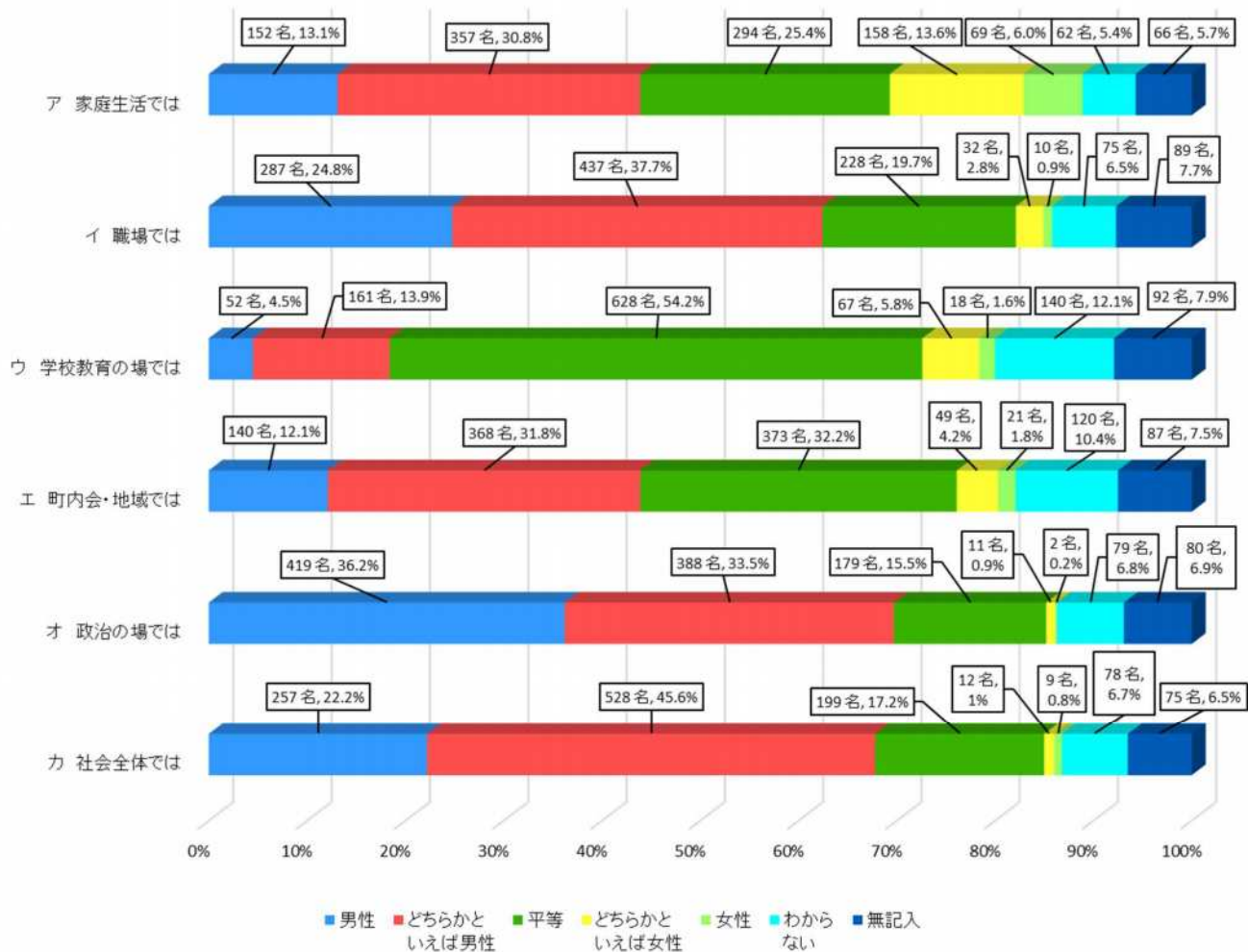
女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」との回答が66.1%と最も多く、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」や「家事、育児、介護支援サービスの充実」との回答も多く見られ、子育てにおける環境の整備に加え、介護についての環境整備についても望まれていることがうかがえます。

問19 あなたは今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。  
特にあてはまると思うものを3つ選んでください。



男性が家事・育児に積極的に参画していくためには、「男性自身の抵抗感をなくすこと」との回答が64.9%と最も多くなっています。また、「労働時間短縮や休暇制度の充実を進めること」という回答も59.2%と多く、男性の意識改革や、男性が家事等に参画しやすい環境整備が求められていることがうかがえます。

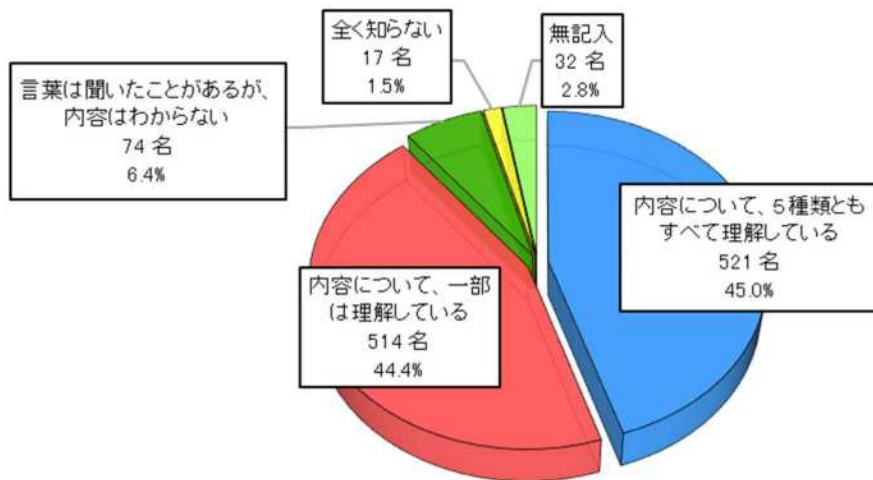
問20 あなたは、男女の地位について、どちらが優遇されていると思いますか。  
ア～カのそれぞれについてお答えください。(それぞれ〇は1つ)



男女の地位については、学校教育の場では「平等」という回答が54.2%と多くみられましたが、その他の場では「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」という回答が多く、社会全体としても同様の回答が67.8%となっており、依然として男性優位の社会であるとの認識が根強いことがうかがえます。

このことから、男女平等に関する意識の醸成に加え、様々な場での女性登用についても更に進めていく必要があると考えられます。

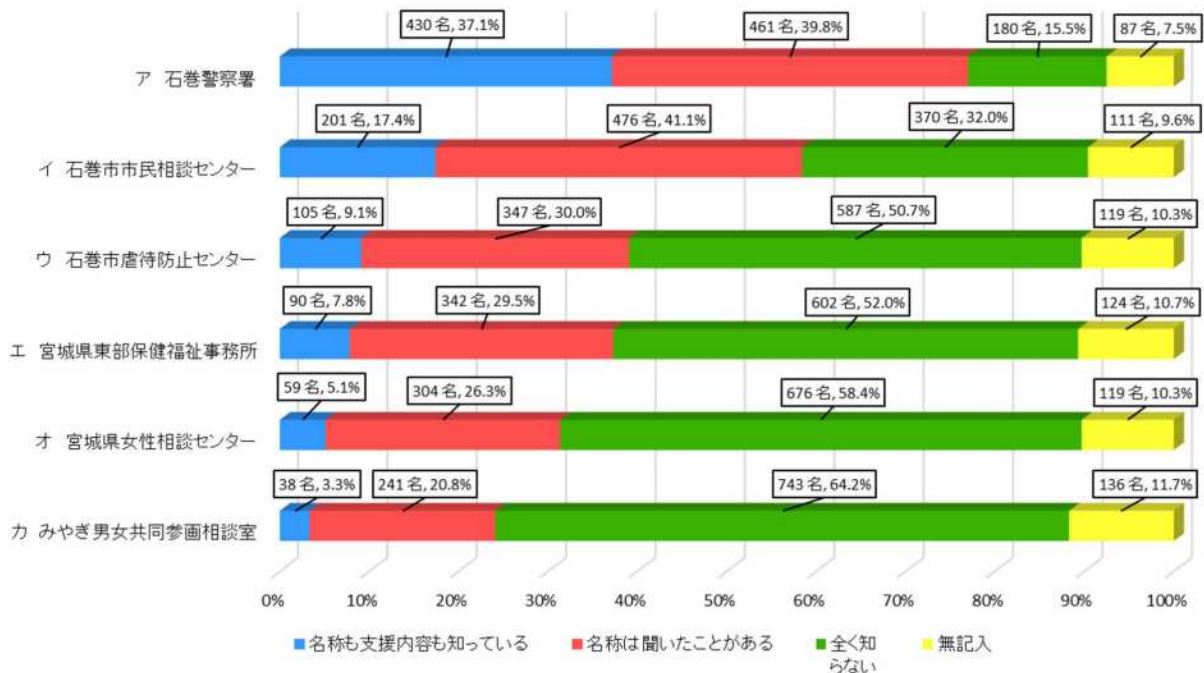
問21 あなたは、DV（配偶者等からの暴力）の内容について正しく理解していますか。  
1つ選んでください。  
《DVの種類・身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力》



DVの内容について正しく理解しているかについては、「5種類ともすべて理解している」が45.0%、「一部は理解している」が44.4%となっています。

言葉自体の認知率は高くなっていますが、一部のみではなく、すべてのDVについて正しく理解してもらうために、より一層の啓発に努める必要があると考えられます。

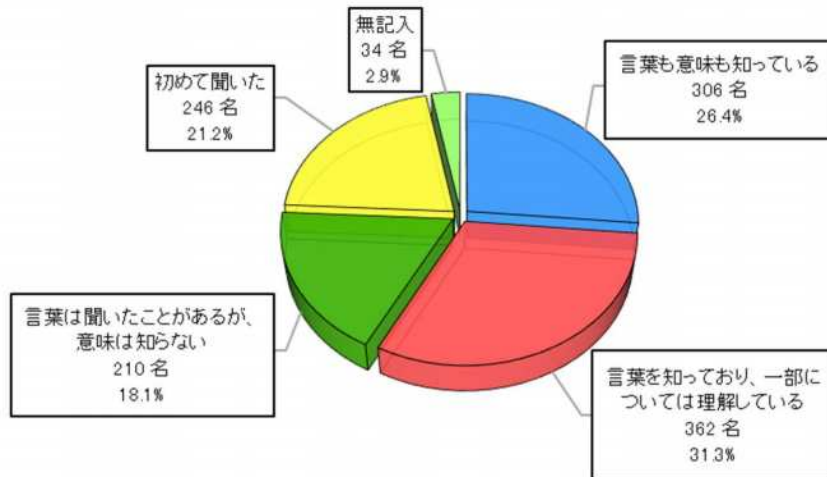
問22 あなたは、セクシャル・ハラスメントまたはDV（配偶者等からの暴力）被害にあった時の相談窓口（ア～カ）を知っていますか。  
ア～カのそれぞれについてお答えください。（それぞれ〇は1つ）



セクシャル・ハラスメントまたはDVの各相談窓口について「名称も支援内容も知っている」と回答された窓口の最も多いところでも、その割合は4割にも満たず、セクシャル・ハラスメントやDV被害にあった際の相談窓口の認知度はかなり低いことがうかがえます。

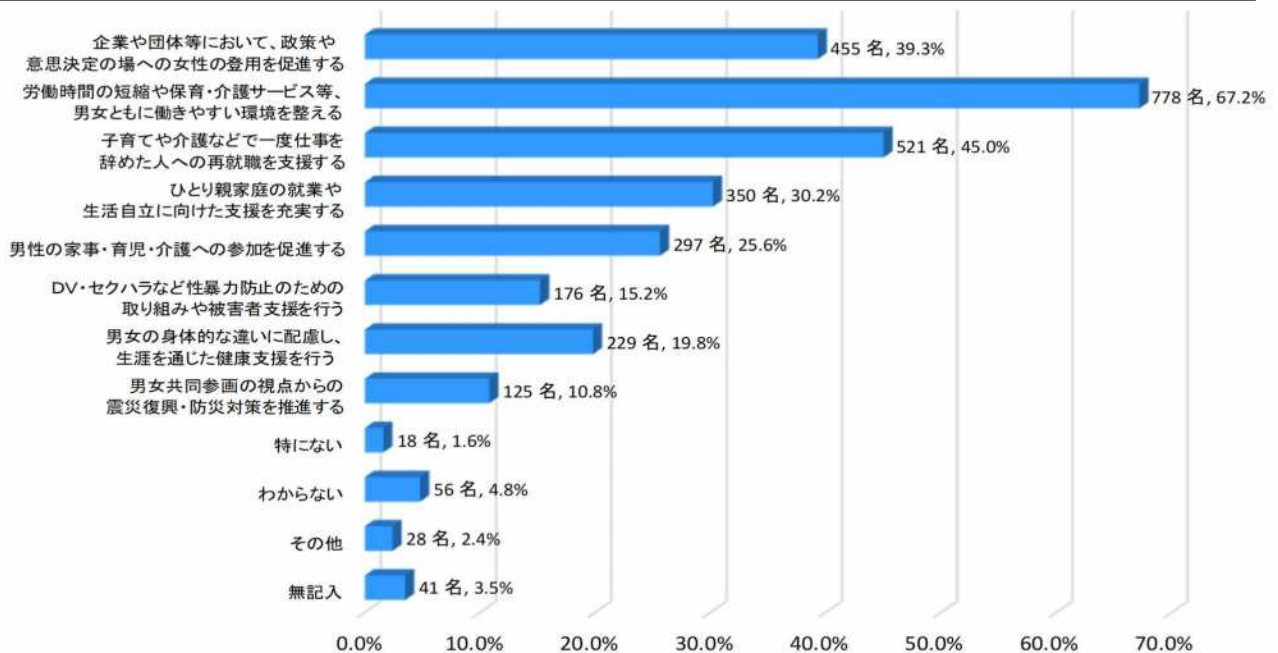
このことから、相談窓口や支援内容の周知を更に進めていく必要があると考えられます。

問23 「性的マイノリティ」「LGBT」という言葉を知っていますか。  
1つ選んでください。



性的マイノリティ、LGBTの認知度については、「言葉も意味も知っている」、「言葉を知っており、一部については理解している」と回答した割合については57.7%となっていますが、「意味も知っている」と回答した割合のみを見ると26.4%となっているため、言葉だけでなく、内容についても理解を深めてもらうために、更なる周知を進める必要があると考えられます。

問24 男女共同参画社会を実現するために、今後、石巻市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。特に必要だと思うものを3つ選んでください。



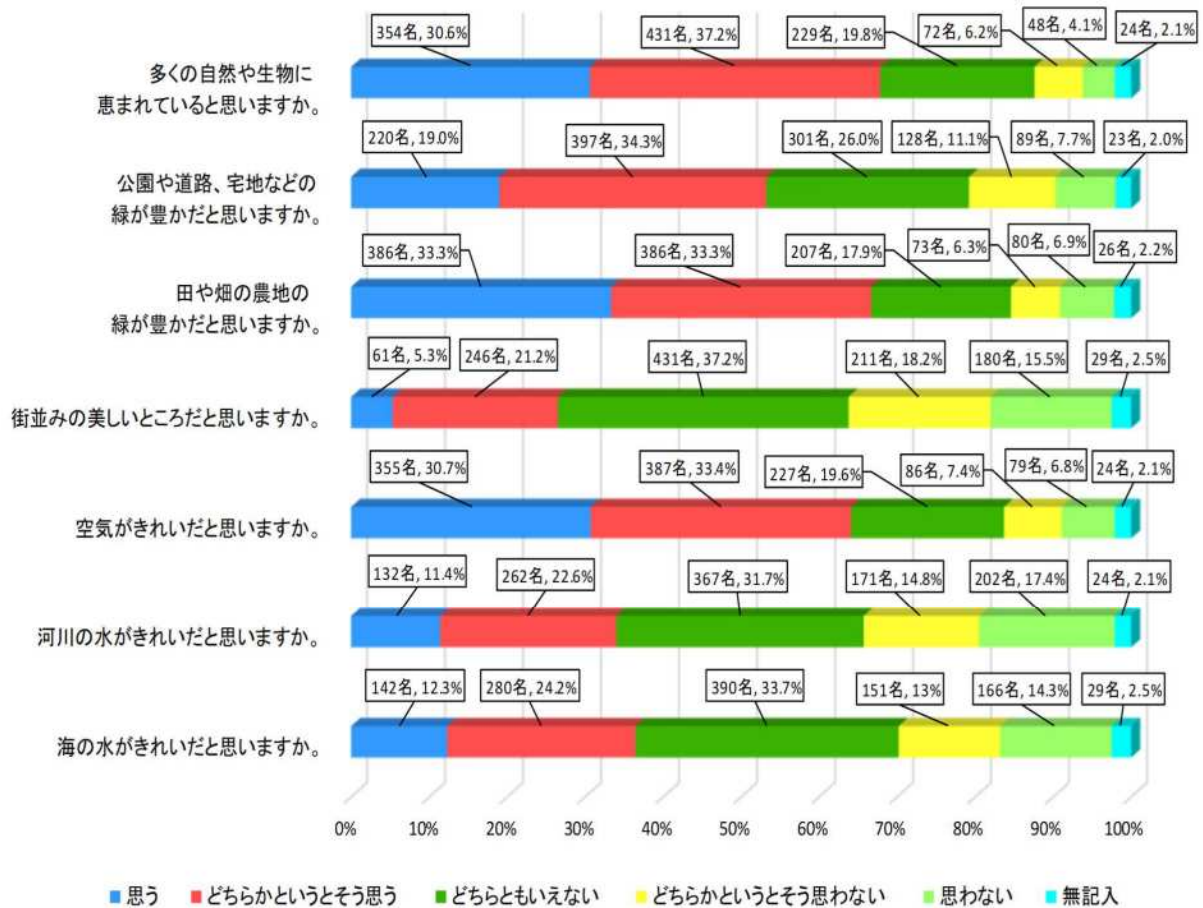
男女共同参画社会を実現するために市が特に力を入れていくべきこととして、「労働時間の短縮や保育・介護サービス等、男女ともに働きやすい環境を整える」との回答が67.2%と高くなっており、男女ともに家事や育児などをしながらでも十分に働くことができる環境が必要とされていることがうかがえます。

また、「子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する」との回答が45.0%、「企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する」との回答が39.3%となっており、今後更に女性の再就職に対する支援や、登用促進の呼びかけを行う必要があると考えられます。



## 7 石巻市の環境について

○自分が住んでいる地域の環境についてお答えください。



問25 多くの自然や生物に恵まれていると思いますか。1つ選んでください。

多くの自然や生物に恵まれていると思う市民が多い結果となりました。  
本市は海、山、川など豊かな自然に囲まれ、そこには多種多様な生物が生息・生育していることから、これらを地域の財産として後世に引き継いでいくため、人の暮らしと自然が調和する地域づくりに取り組んでいく必要があります。

問26 公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思いますか。1つ選んでください。

公園や道路、宅地などの緑が豊かだと思う市民が半数以上となりました。  
宅地開発や道路整備を進める際には緑化に配慮し、自然環境を保全しながら実施することが求められ、身近に緑とふれあえる環境を創出していく必要があります。

問27 田や畑の農地の緑が豊かだと思えますか。1つ選んでください。

田や畑の農地の緑が豊かだと思っている市民が多い結果となりました。  
自然と調和した良好な景観はふるさとの誇り、そして地域の魅力であることから、その保全や創出に取り組んでいく必要があります。

問28 街並みの美しいところだと思えますか。1つ選んでください。

街並みの美しいところだと思わない市民が多い結果となりました。  
魅力あるまちづくりに向けて、地域の景観に目を向け、自然や文化、歴史などを学び、体験しながら、地域特性を活かした景観の形成を推進し、魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

問29 空気がきれいだと思えますか。1つ選んでください。

空気がきれいだと思っている市民が多い結果となりました。  
市民ひとりひとりが健康な生活を送るために、大気を安全な状態に保つことが必要不可欠です。そのため、日常生活を取り巻く環境について、市民が安心して暮らすことのできる良好な状態の維持に向け「環境負荷の低減」に取り組んでいく必要があります。

問30 河川の水がきれいだと思えますか。1つ選んでください。

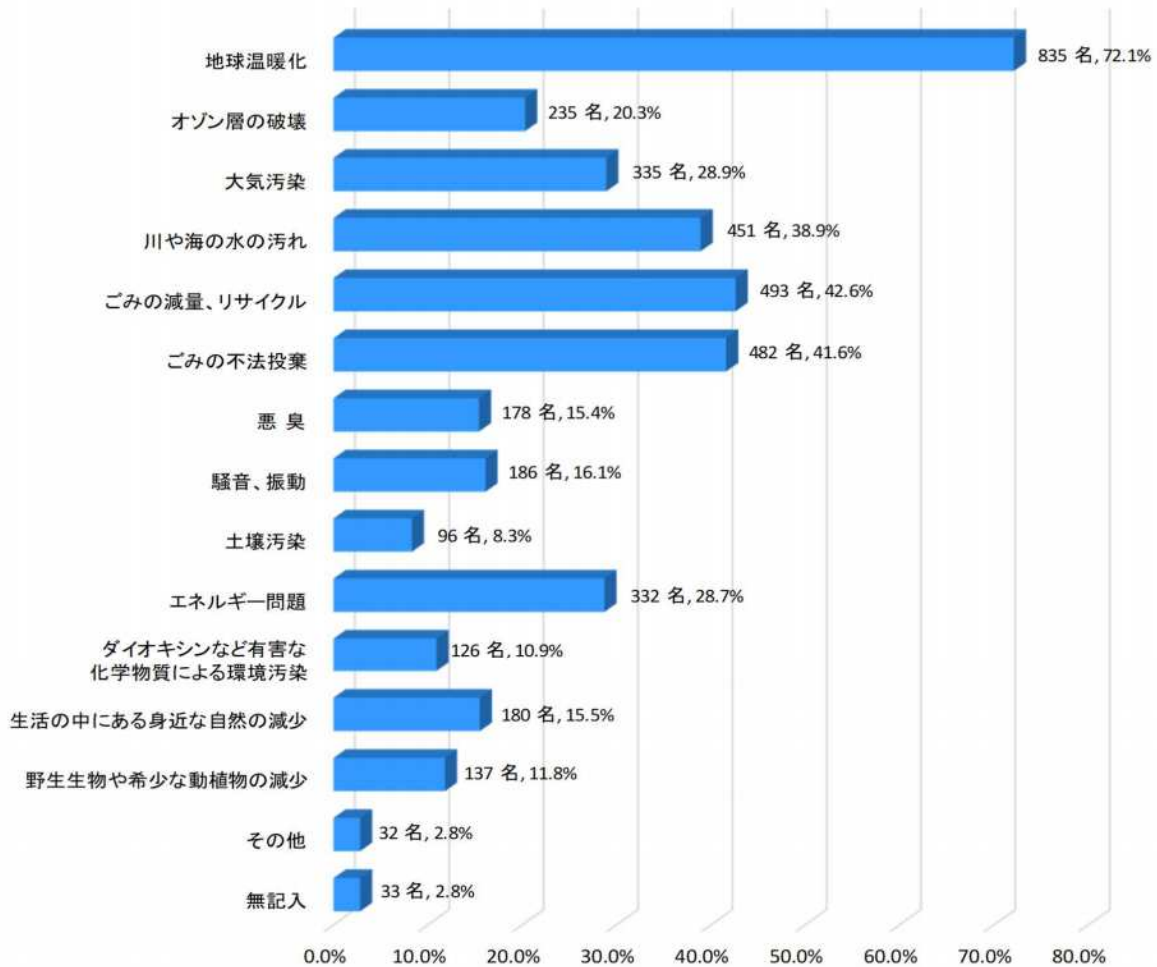
河川の水がきれいだと思う市民が、思わない市民をわずかに上回る結果となりました。  
河川の汚濁は結果として海洋汚染にもつながるため、水環境の監視を行いながら安全で清らかな水の確保に向けて取り組んでいく必要があります。

問31 海の水がきれいだと思えますか。1つ選んでください。

海の水がきれいだと思う市民が、思わない市民を上回る結果となりました。  
海の汚濁を防止するために、水環境の監視を行うとともに、水質汚濁防止に関し、普及・啓発を推進していく必要があります。

○関心のある環境問題についてお答えください。

問3 2 あなたが関心のある環境問題を選んでください。(複数回答可)



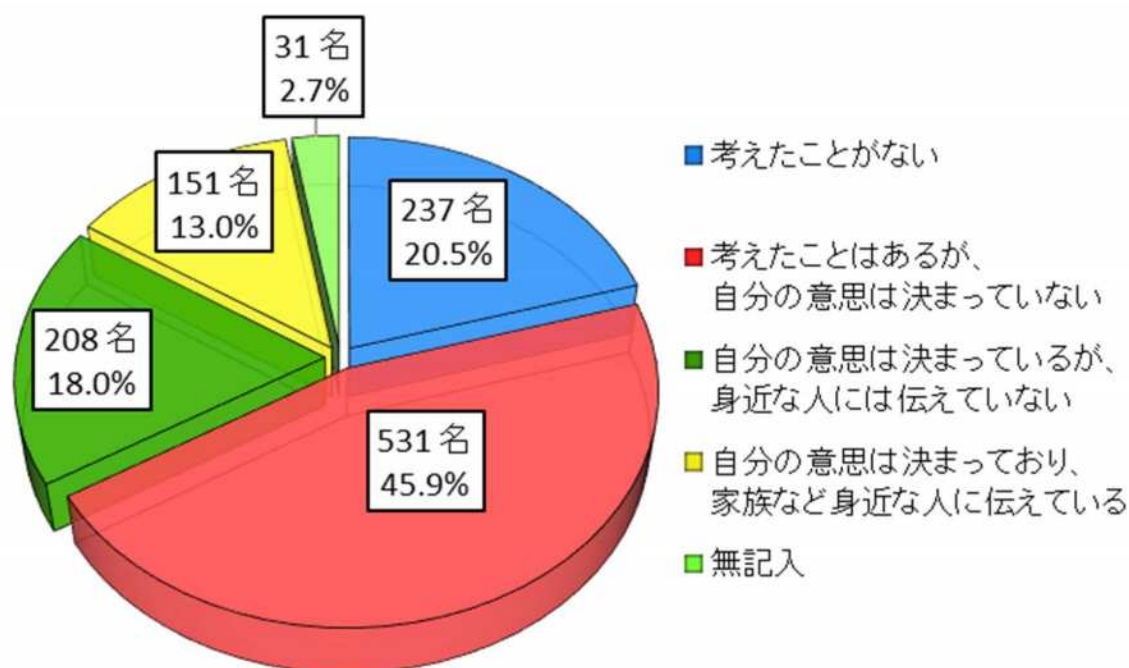
環境問題については、特に地球温暖化やごみの問題、川や海の水の汚れに関心を持っている市民が多い結果となりましたが、「騒音、振動」以外の全ての項目において前年度調査よりも比率が低くなっており、環境問題について関心や意識が低くなってきていることが分かります。

私たちは、これらの環境問題を身近な問題として捉え、ひとりひとりが環境問題について正しい知識を持ち、正しく行動する「環境市民」として生活していくことが強く求められます。

## 8 人生の最終段階における医療や介護について

あなたご自身が、回復の難しい病気になり、余命が6か月程度あるいはそれより短い期間と告げられた場合を想定し、医療や介護に関するご希望を伺います。

問33 あなたは人生の最終段階における過ごし方について考えたことがありましたか。  
1つ選んでください。



「考えたことはあるが、自分の意思は決まっていない」(45.9%)が最も多く、「決まっていて伝えていない」(18.0%)「決まっていて伝えている」(13.0%)と合わせると7割以上を占めます。

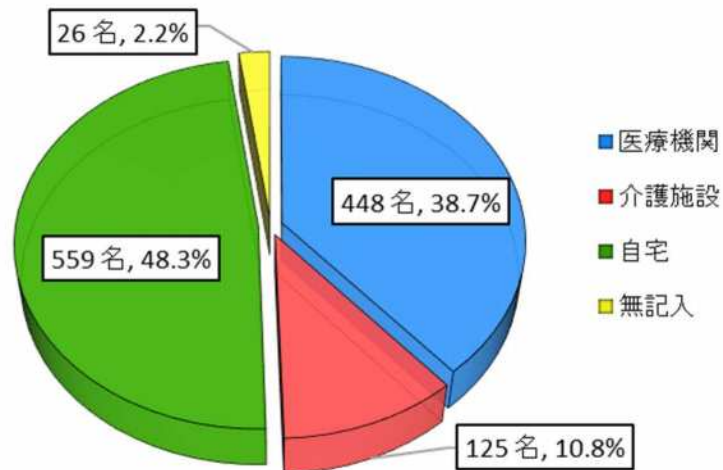
平成30年度調査と比較すると、「考えたことがある人」は5ポイント増え、人生の最終段階における過ごし方について、考えはじめている状況と思われます。今後、「考えた人」が「身近な人に伝えることができる」よう周知を図る必要があります。

○もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・療養を希望しますか。

【あなたの病状】

末期がんと診断され、状態は悪化し、今は食事がとりにくく、呼吸が苦しいといった状態です。しかし、痛みはなく、意識や判断力は健康な時と同様に保たれています。

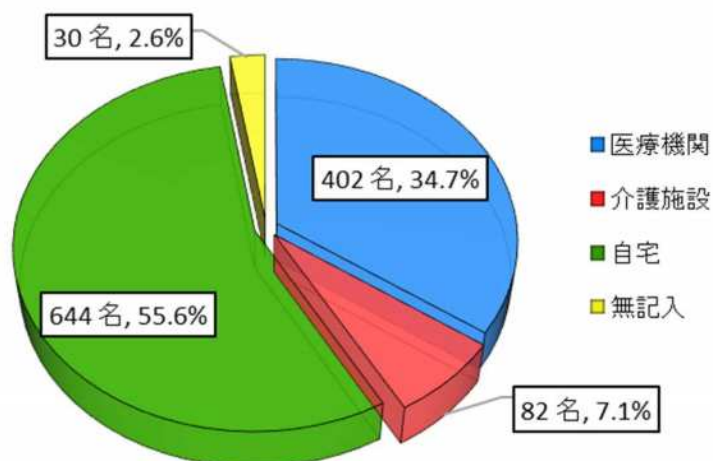
問34 どこで過ごしながら医療・療養を受けたいですか。1つ選んでください。



(末期がんで判断力が保たれているという設定での問いに対して) 医療・療養を受けたい場所として「自宅」(48.3%)が最も多く、次いで「医療機関」(38.7%)です。平成30年度調査も同様に「自宅」と答えた方の割合が高い状況です。

今後も、身体や環境の状況に応じて療養する場所を選択することができるよう、情報提供を行っていく必要があると考えます。

問35 どこで最期を迎えることを希望しますか。1つ選んでください。



最期を迎えたい場所として、「自宅」(55.6%)が最も多く、次いで「医療機関」(34.7%)です。平成30年度調査と比較し、「医療機関」「介護施設」「自宅」とする回答が増え、無記入が減っています。

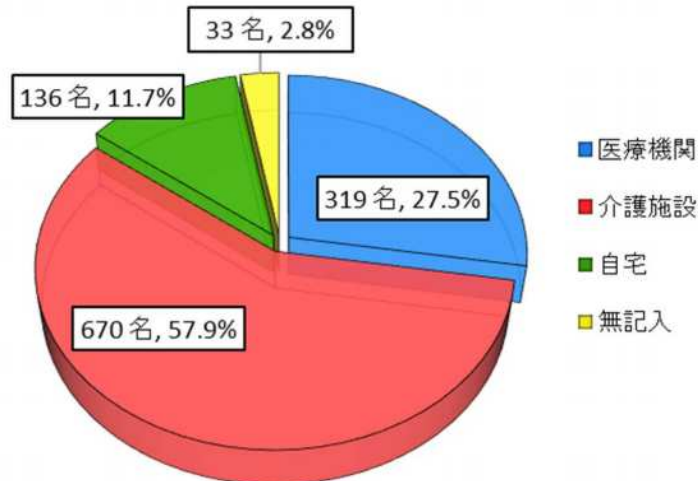
市民がどこで最期を迎えるかについて、考えるようになってきたと思われます。今後も看取りについて継続した周知が必要とされます。

○もしあなたが以下のような病状になった場合、どのような医療・療養を希望しますか。

【あなたの病状】

認知症が進行し、自分の居場所や家族の顔が分からず、食事や着替え、トイレなど身の回りのことに手助けが必要な状態で、かなり衰弱が進んできました。

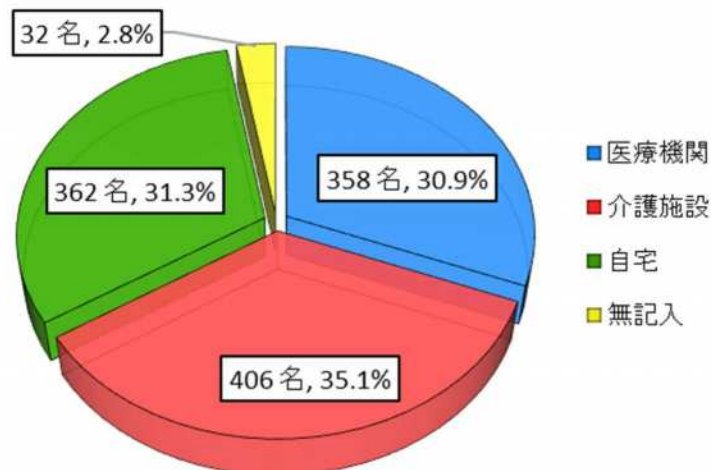
問36 どこで過ごしながら医療・療養を受けたいですか。1つ選んでください。



(認知症で身の回りの手助けが必要な状況という設定での問いに対して) 医療・療養を受けたい場所として「介護施設」(57.9%)が最も多く、次いで「医療機関」(27.5%)、「自宅」(11.7%)の順です。問34、問35と比べ、認知症が進行し介護等が必要な状態では、「自宅」を選択する方が少ない状況です。平成30年度調査も同様の傾向となっています。

今後も在宅介護についてへの市民の理解、周知を図る必要があると考えます。

問37 どこで最期を迎えることを希望しますか。1つ選んでください。

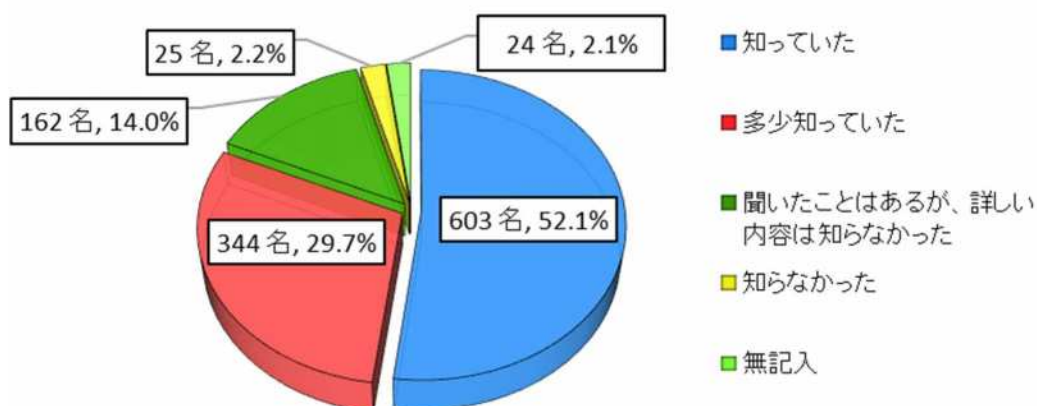


(認知症で身の回りの手助けが必要な状況という設定での問いに対して) 最期を迎える場所については、問36の療養したい場所と同様に「介護施設」の割合が35.1%と最も多くなっています。

平成30年度調査と比べると、「自宅」の割合が5%増えており、「認知症であっても最期は自宅で迎えたい」と考える方が微増している状況です。

今後も看取りにおいて、必要なサービスが提供できる体制づくりが必要と思われます。

問38 「在宅医療」とは、医師のほか、訪問看護師、薬剤師や理学療法士（リハビリ）等の専門職が、患者さんの自宅や施設等に訪問して医療を行うことです。  
あなたは、「在宅医療」について知っていましたか。1つ選んでください。

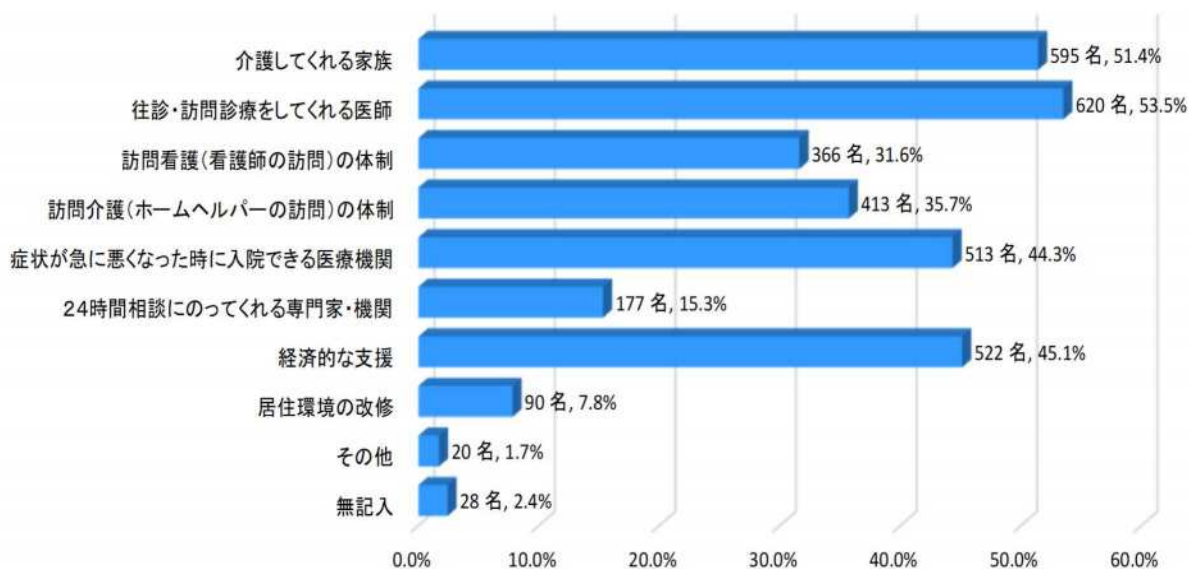


「知っていた」(52.1%)が最も多く、「多少知っていた」(29.7%)と合わせると8割を超えています。

平成30年度調査と比べると、9%増えています。出前講座の申し込みが増えていることや、メディア等を通して周知が進んでいると思われます。

今後も出前講座や研修などで、市民への普及啓発が必要であると考えます。

問39 今後、自宅で最期まで療養するために必要だと思うことを3つ選んでください。



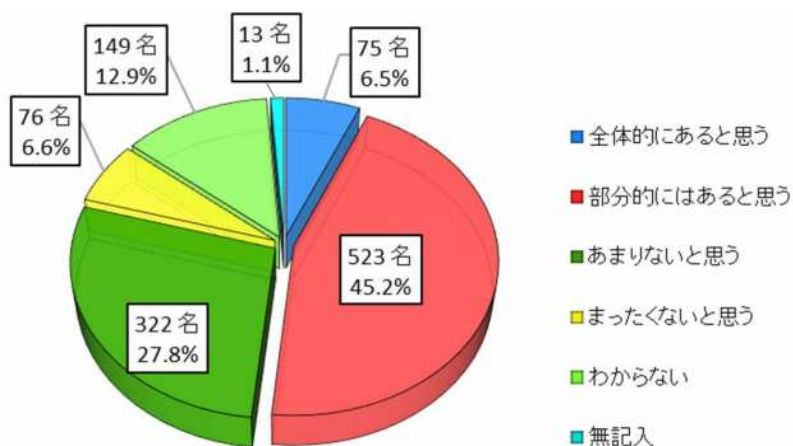
「往診・訪問診療をしてくれる医師」(53.5%)、「介護してくれる家族」(51.4%)、「経済的な支援」(45.1%)、「症状が急に悪くなった時に入院できる医療機関」(44.3%)の順で続いています。

自宅で最期まで療養していくために「病院・診療所」や「看護・介護」の連携のほか、経済面を含めての家族支援が必要と考えられます。

今後、市民・関係者が必要とするきめ細やかな支援体制の推進が重要とされます。

## 9 地域福祉について

問40 あなたの住んでいる地域には、困っている時に助け合う意識があると思いますか。1つ選んでください。

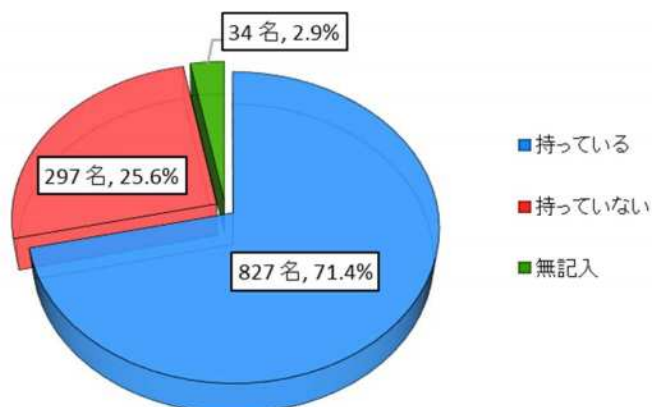


地域での助け合う意識について、「全体的にあると思う」が6.5%、「部分的にはあると思う」が45.2%であり、助け合う意識があると思っている人の合計は51.7%と過半数を超えています。

一方、「あまりないと思う」が27.8%、「まったくないと思う」が6.6%であり、助け合う意識がないと思う人は34.4%となっています。

今後は更に少子高齢化が進行する見込みであるため、地域住民同志のつながりを強化し、生活課題等に気づき、互いに支え合う意識の醸成が必要であると考えます。

問41 あなたは普段の生活で生きがいを持っていますか。1つ選んでください。

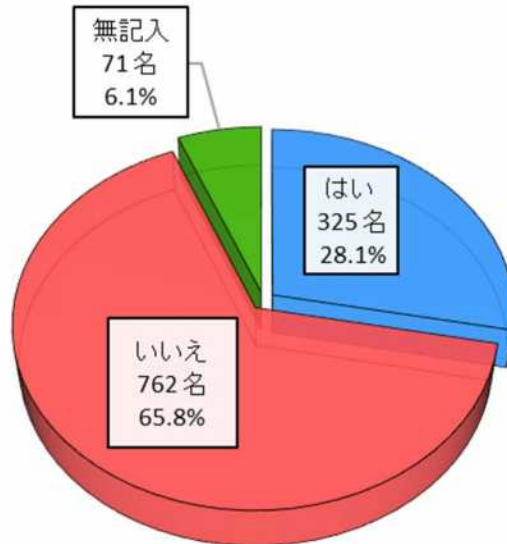


生きがいを持っている人は71.4%となっており、多くの市民が生きがいを持ち、生活していることが分かります。しかし、生きがいを持っていない人が25.6%いるため、生きがいづくりにつながるよう、趣味の活動や身近な地域住民によるサロン活動等の生きがいを持つきっかけとなるような機会を推進することにより、多くの市民が自分らしくいきいきとした生活が送れるようになるものと考えます。

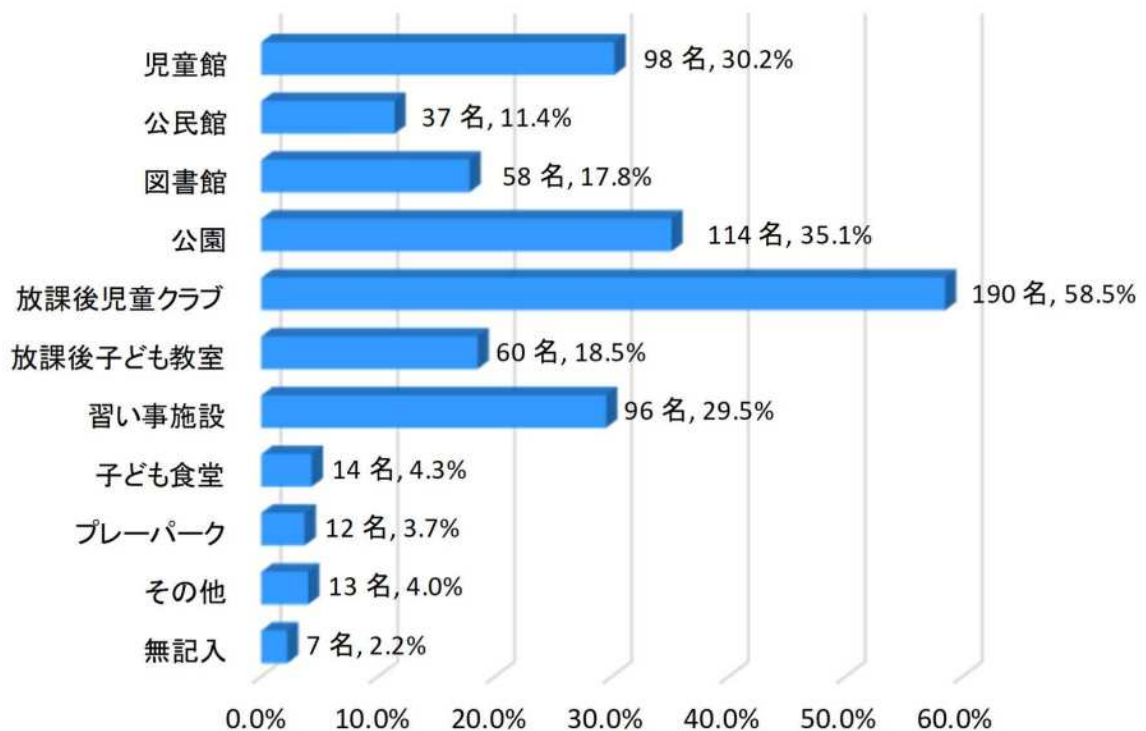


## 10 子どもの居場所づくり(子育て施策)について

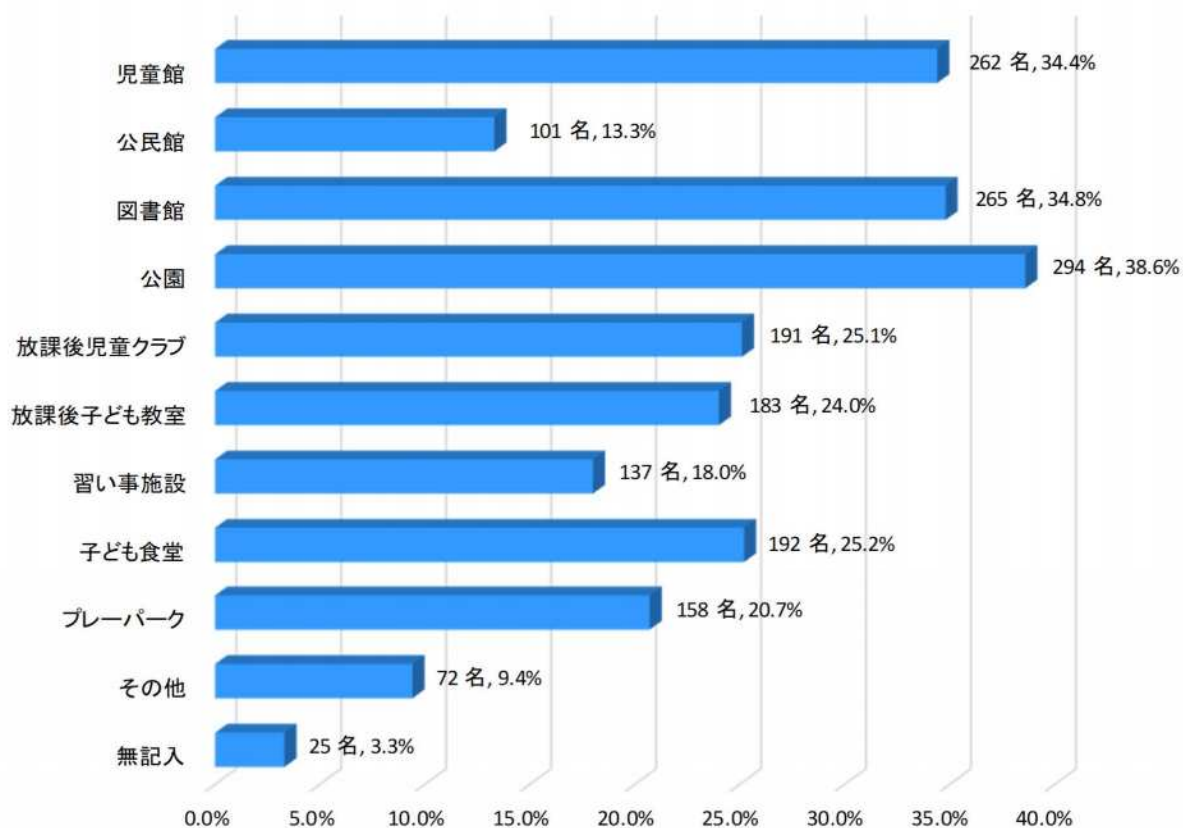
問42 あなたは、石巻市の子どもにとって、家でも学校でもない居場所が充実していると感じていますか。  
1つ選んでください。



問43 問42で「1. はい」と答えた方にお聞きします。  
充実していると感じる主な場所は何ですか。当てはまるものをすべて選んでください。



問44 問42で「2. いいえ」と答えた方にお聞きします。  
 充実していないと感じる主な場所は何ですか。  
 当てはまるものをすべて選んでください。



石巻市の子どもにとって、家でも学校でもない居場所が充実していることについて「はい」と回答した方が28.1%で、「いいえ」と回答した方が65.8%、約3人に2人が充実していないと感じています。

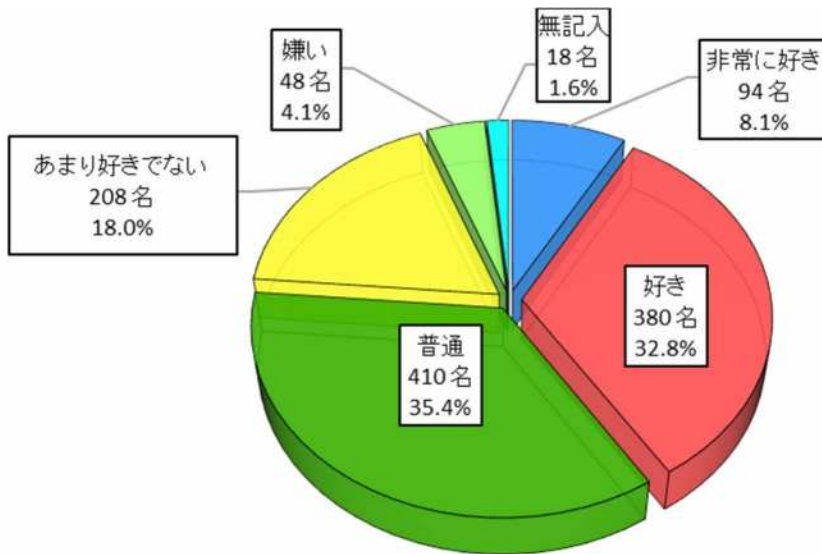
充実していると感じている主な場所としては「放課後児童クラブ」を挙げる方が多くなりましたが、逆に「子ども食堂」、「プレーパーク」といった居場所については、回答数が少ないことから、事業を幅広く市民に周知し、認知していただくことが必要であると伺えます。

次に充実していないと感じている主な場所は「公園」、「図書館」、「児童館」となっています。これらの施設は、施設の老朽化等により現在も整備を進めている段階にある「公園」、「図書館」となっており、また、新たな施設の整備が必要な「児童館」となっています。

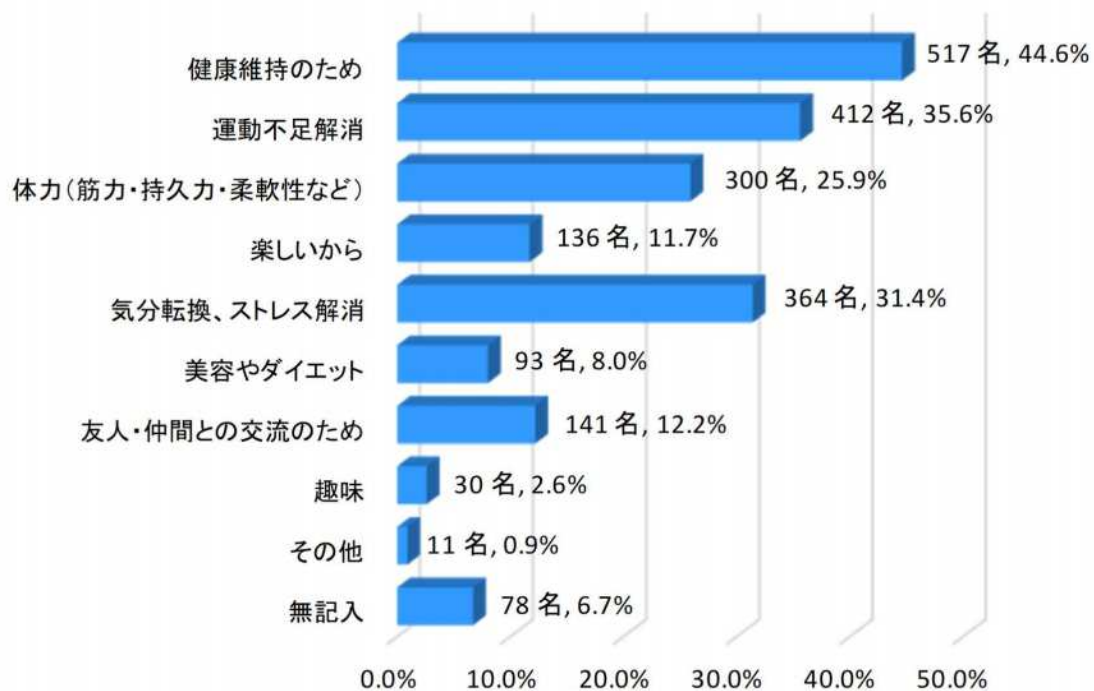
このことから、新たに子どもの居場所となる場所を整備する際は、複合的な施設整備を踏まえ、検討することが必要です。

## 11 運動・スポーツについて

問45 運動やスポーツをすることは好きですか。1つ選んでください。

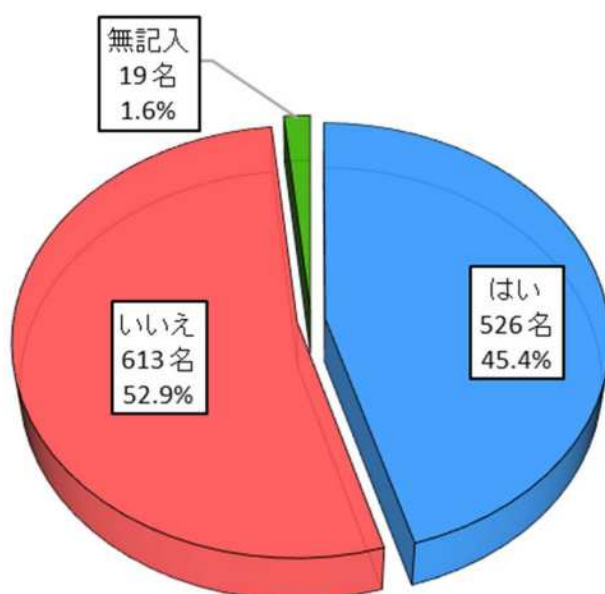


問46 運動やスポーツをする理由はなんですか。特に当てはまるものを2つ選んでください。



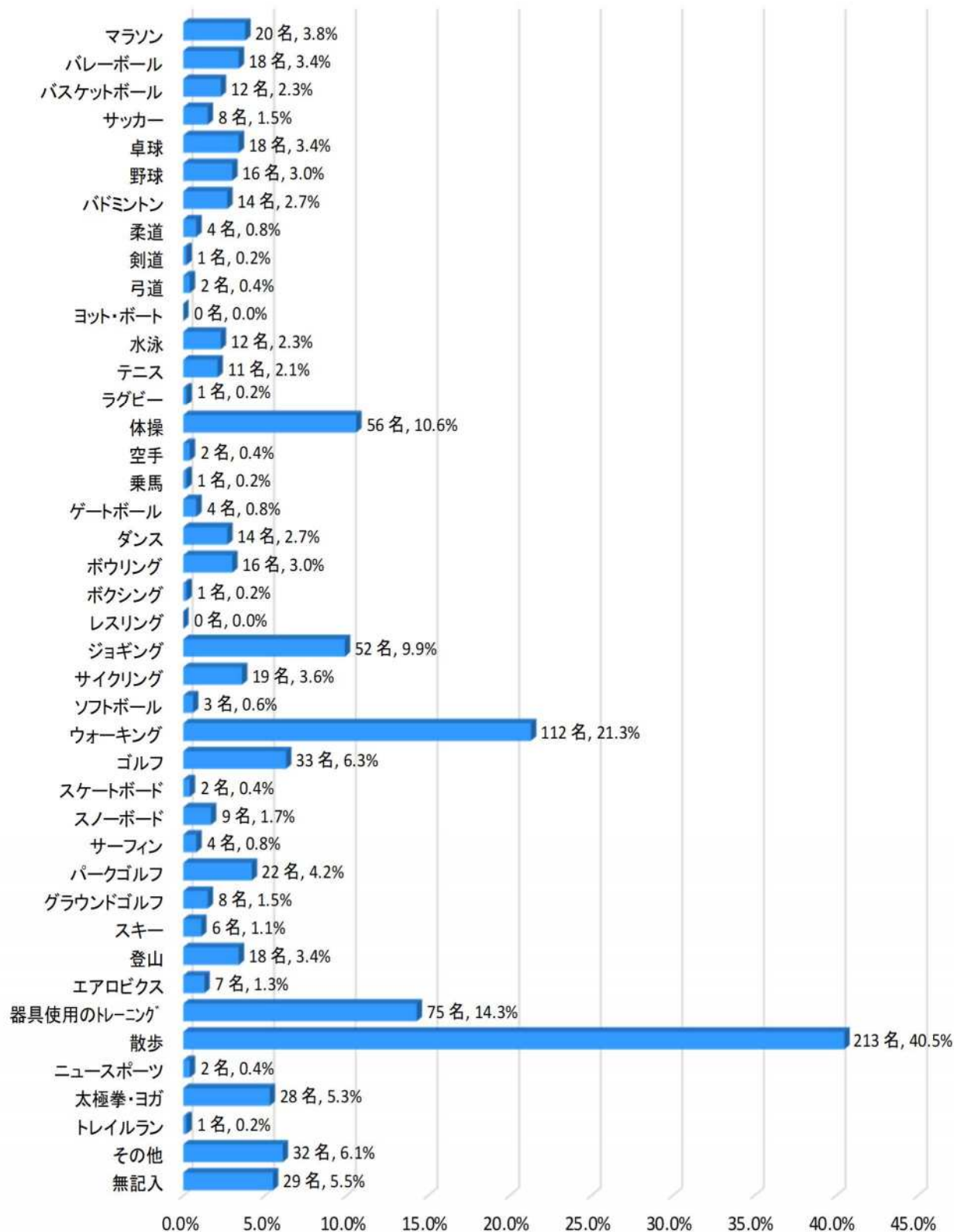
スポーツが好きかという問いに対して、「普通」が35.4%と最も多く、スポーツを行う理由として、最も多かったのが「健康維持のため」で44.6%、次いで「運動不足解消」で35.6%となっており、スポーツを好んで行っているというよりは、健康増進に伴う実益を重視した結果が多くなりました。

問47 この一年間に何らかの運動やスポーツを行いましたか。1つ選んでください。



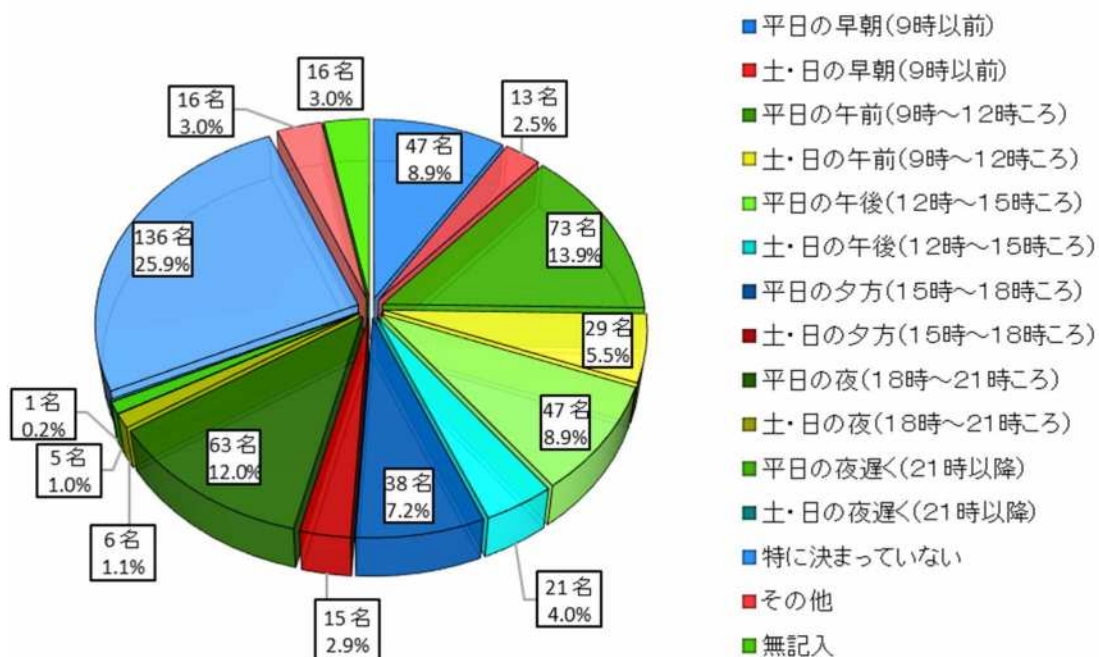
1年間に何らかのスポーツを行ったかについては、「いいえ」が52.9%で半数以上の方が行っていない現状となりました。行わなかった状況、もしくは行えなかった理由等を含め検証し、今後のスポーツの推進に取り組む環境整備が必要と考えます。

問48 問47で、「1. はい」を選んだ方にお聞きします。  
この一年間で行ったスポーツは何ですか。主なものを2つ選んでください。

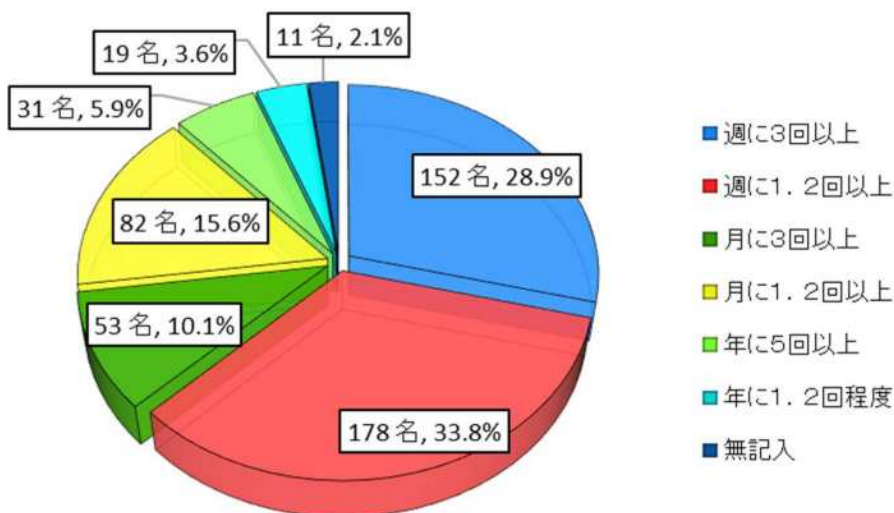


散歩やウォーキングポイントが突出しており、一人でも行える手軽さや運動強度等の調整が自身で行えることから、健康志向のために運動やスポーツに取り組んでいる方とおおよそ合致していると考えられます。

問49 問47で、「1. はい」を選んだ方にお聞きします。  
運動やスポーツを行う時間帯について1つ選んでください。

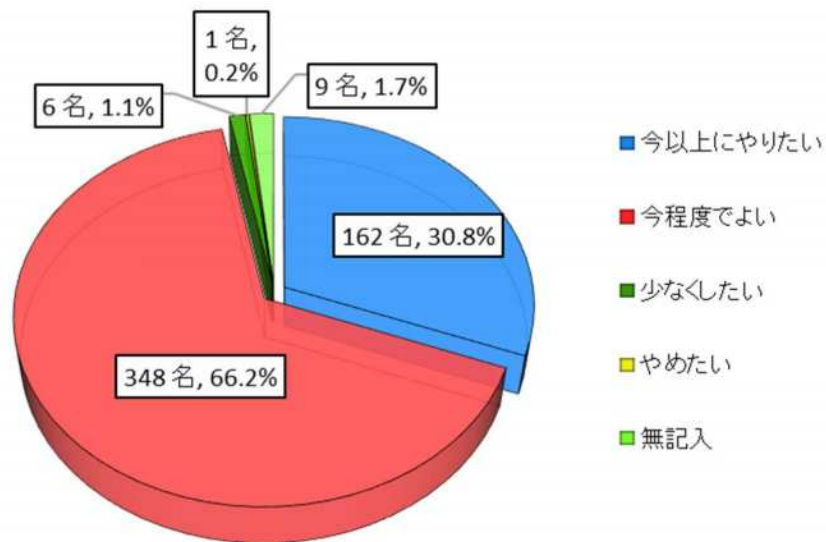


問50 問47で、「1. はい」を選んだ方にお聞きします。  
運動やスポーツを実施した回数は何回くらいですか。1つ選んでください。

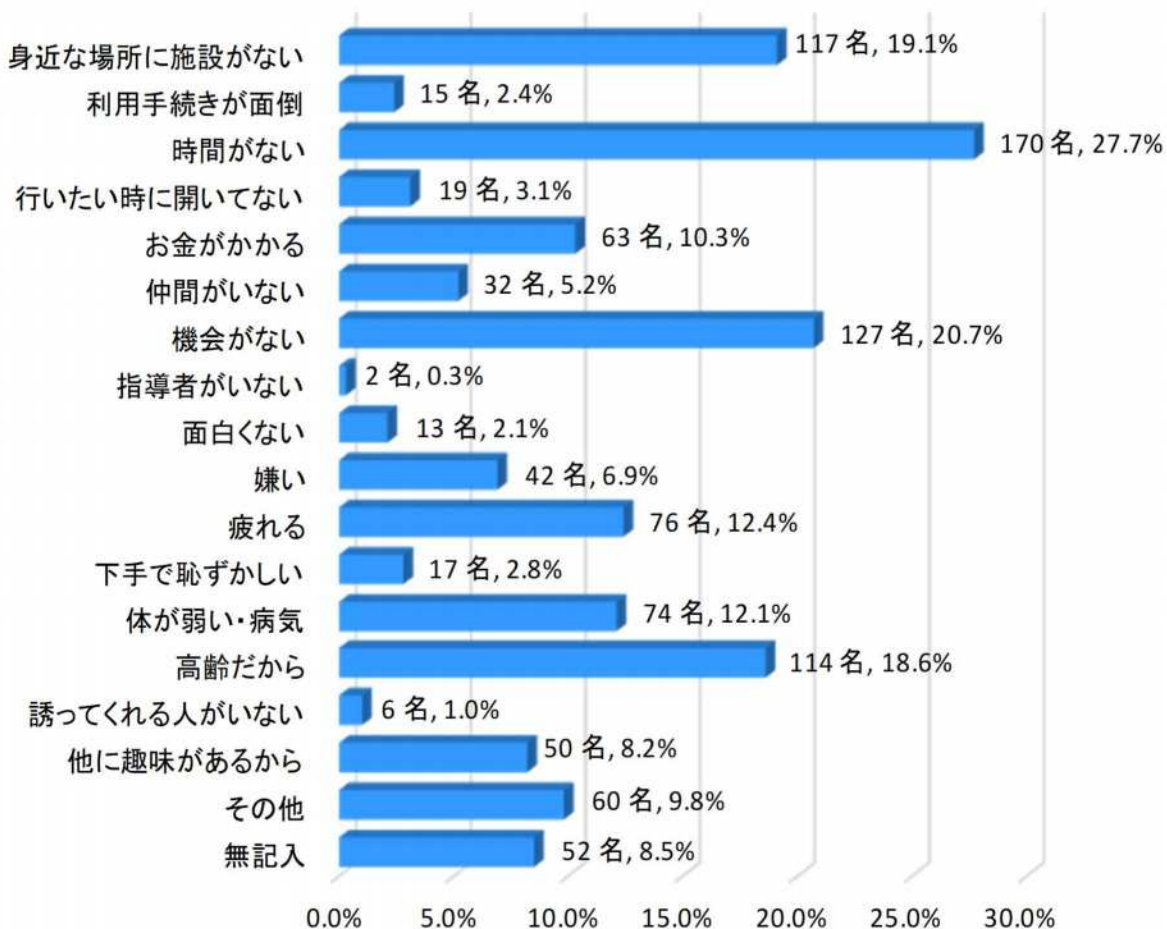


週1回以上の頻度でスポーツを行っている方が62.7%、ほとんど行っていない方が9.5%となり格差が大きく広がっています。今後、この格差を回避するため、身近な所で気軽に身体を動かすための施策を検討する必要があると考えられます。

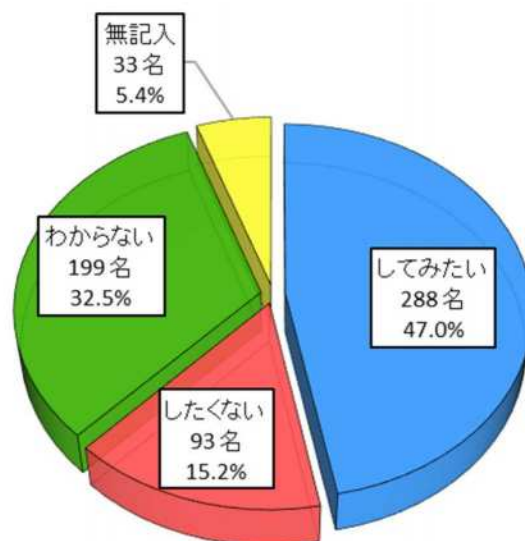
問5 1 問4 7で、「1. はい」を選んだ方にお聞きします。  
 今後、運動やスポーツをどの程度行いたいですか。1つ選んでください。



問5 2 問4 7で、「2. いいえ」を選んだ方にお聞きします。  
 運動・スポーツを行わなかった理由はなんですか。主なものを2つ選んでください。

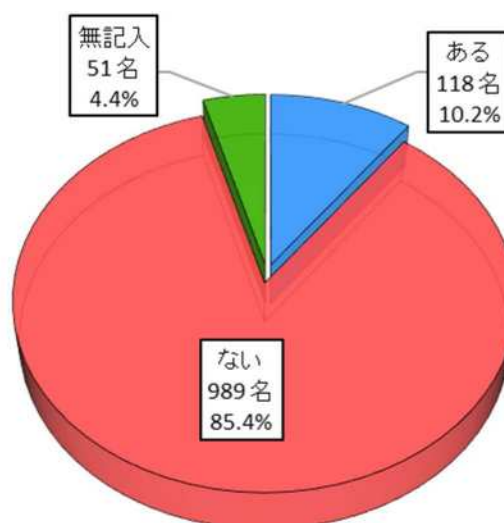


問53 問47で、「2.いいえ」を選んだ方にお聞きします。  
条件が整えば、今後、運動やスポーツをしてみたいですか。1つ選んでください。



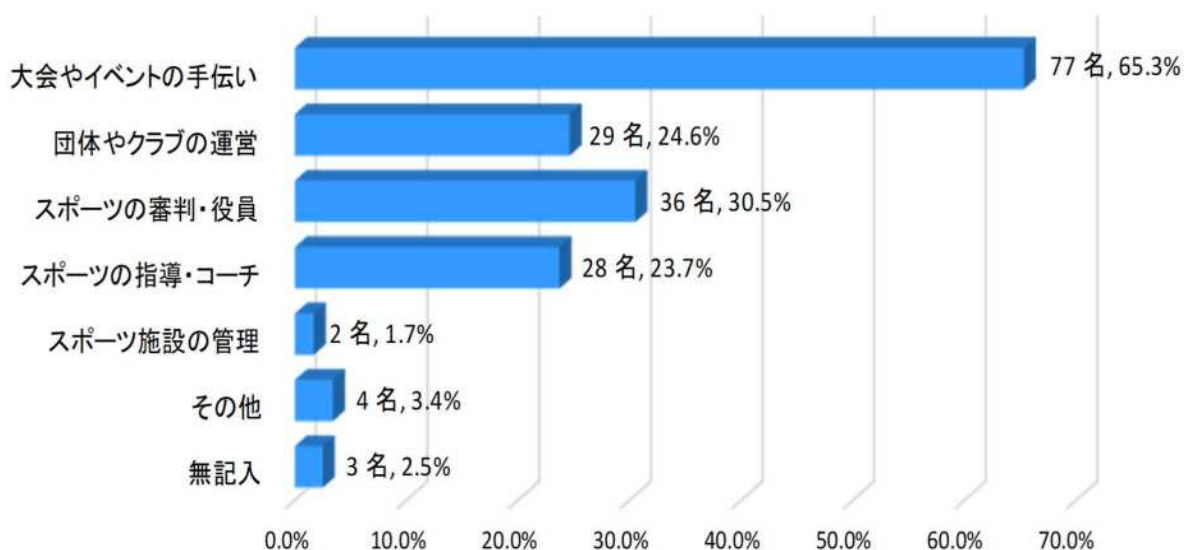
スポーツを行わない理由について一番多かったのは「時間がないから」が27.7%、次いで「機会がない」が20.7%となっており、取り組みたくても取り組むことができない状況の方が多く伺えます。また「身近な場所に施設がない」が19.1%となっており、条件が整えば、今後スポーツをしてみたいですかの問いには、「してみたい」が47.0%となっていることから、今後のスポーツ人口の増加に期待できると考えられます。

問54 運動・スポーツに係るボランティア活動を行ったことがありますか。  
1つ選んでください。

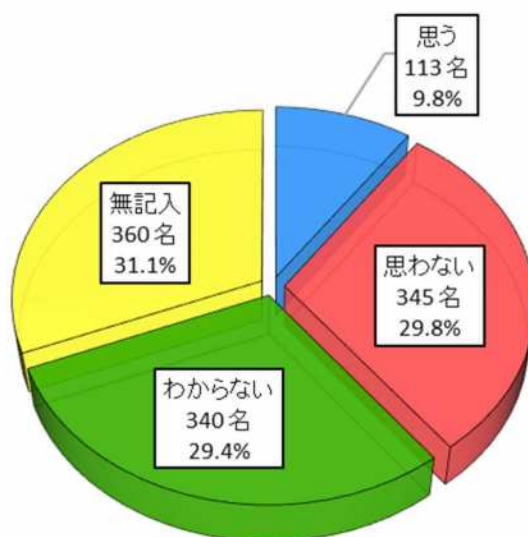




問55 問54で「1.ある」を選んだ方にお聞きします、何のボランティア活動でしたか。主なものを2つ選んでください。

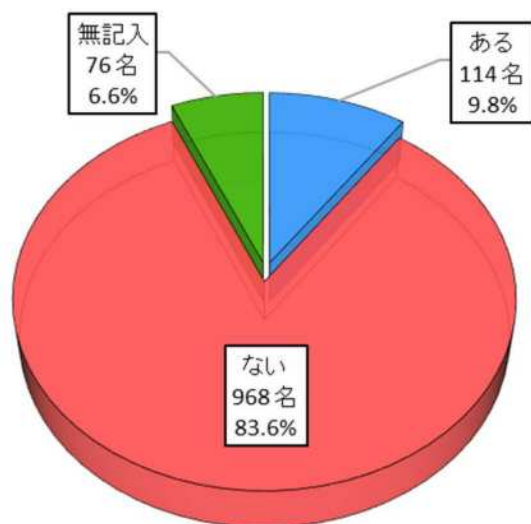


問56 今後も機会があればスポーツボランティア活動を行いたいと思いますか。1つ選んでください。

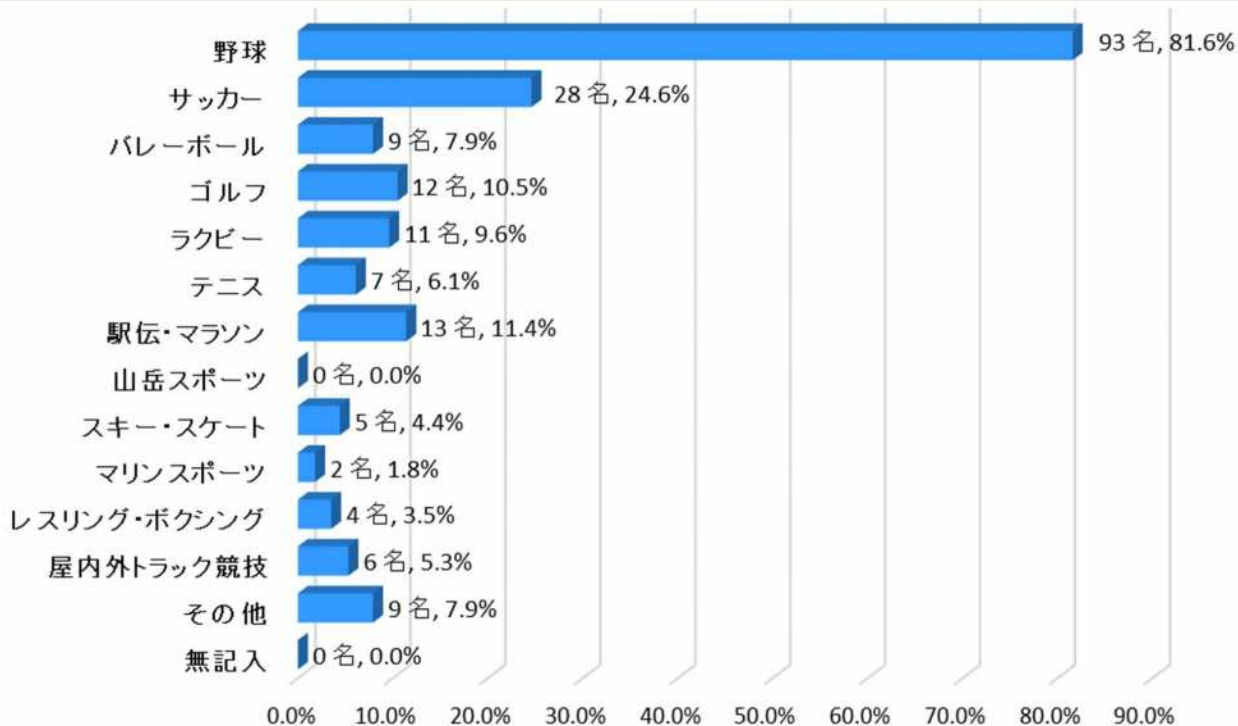


ボランティア活動を行ったことがあるかの問いに対して「行ったことがない」が85.4%となり、今後のスポーツを支える側においても、スポーツに関わる場の提供を構築し、スポーツが地域社会づくりに貢献できるような取組ができれば大きな意義に繋がるのではないかと考えております。

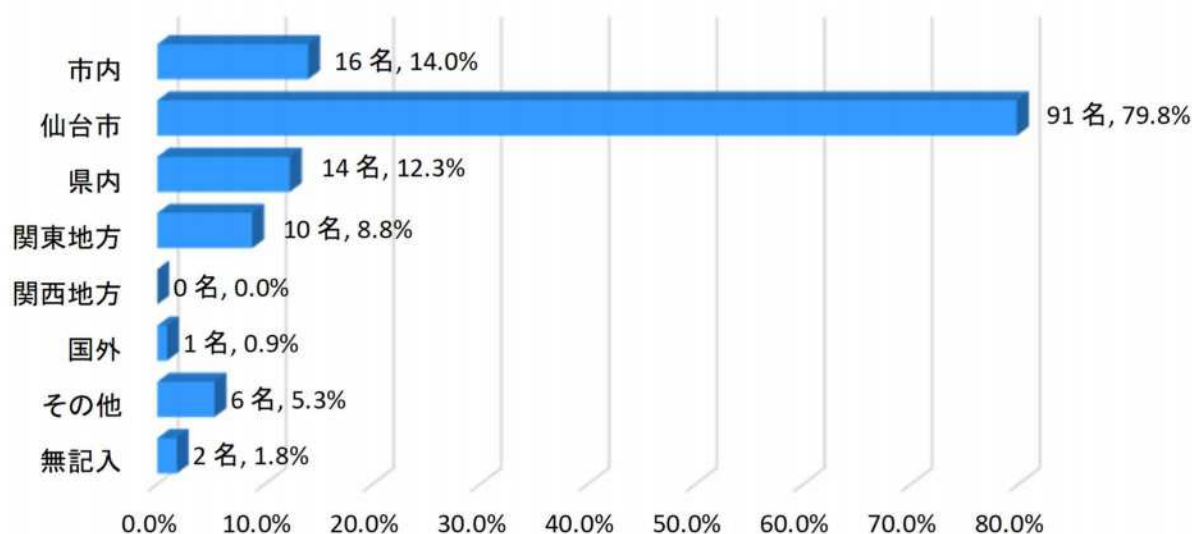
問57 この一年間に、プロスポーツや国際大会などを観戦したことがありましたか。  
1つ選んでください。(テレビ観戦は除く)



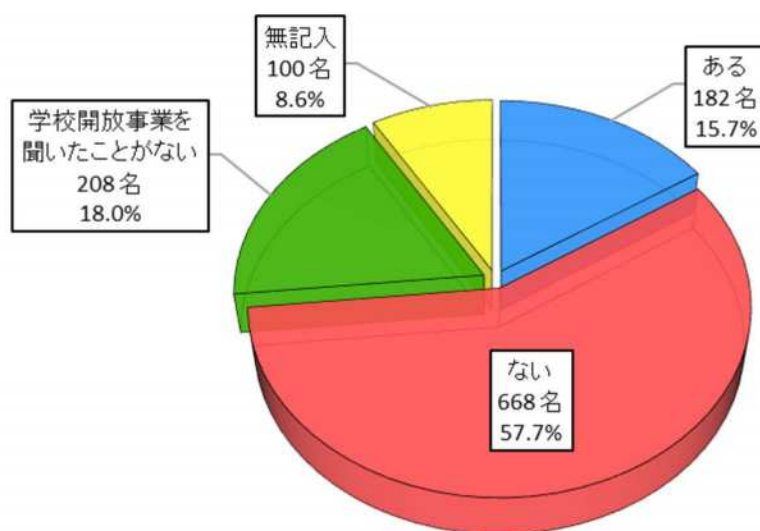
問58 問57で「1.ある」を選んだ方にお聞きします。  
観戦したスポーツ種目は何でしたか。観戦したものを全て選んでください。



問59 問57で「1.ある」を選んだ方にお聞きします。観戦地はどこでしたか。  
当てはまるものをすべて選んでください。

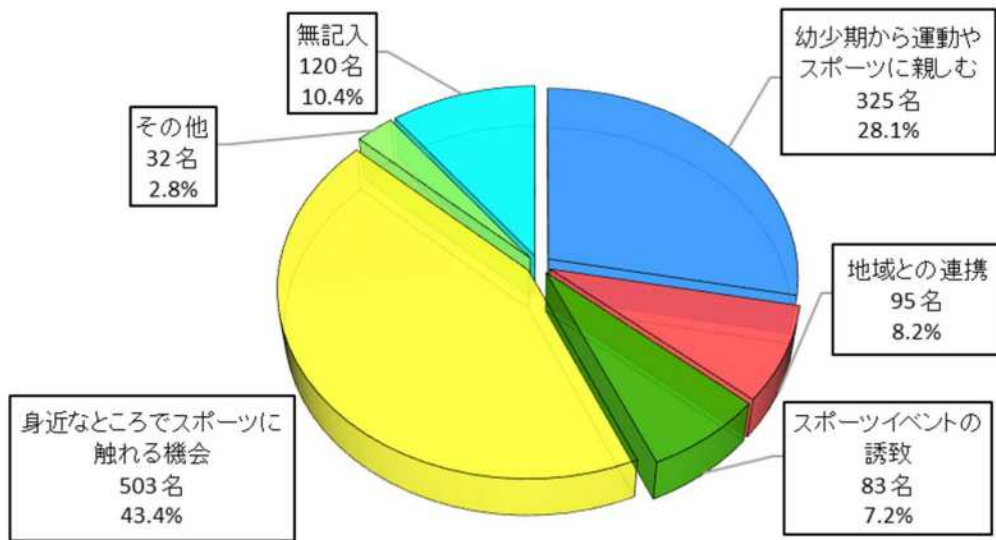


問60 学校体育施設（学校開放事業）を運動やスポーツ活動で利用したことがありますか。  
1つ選んでください。



「利用したことがない」が57.7%となり、「聞いたことがない」が18.0%でした。今後、使わなかった理由や状況を把握し、より多くの団体の方々に使用していただけるよう周知等について、徹底を図りたいと思います。

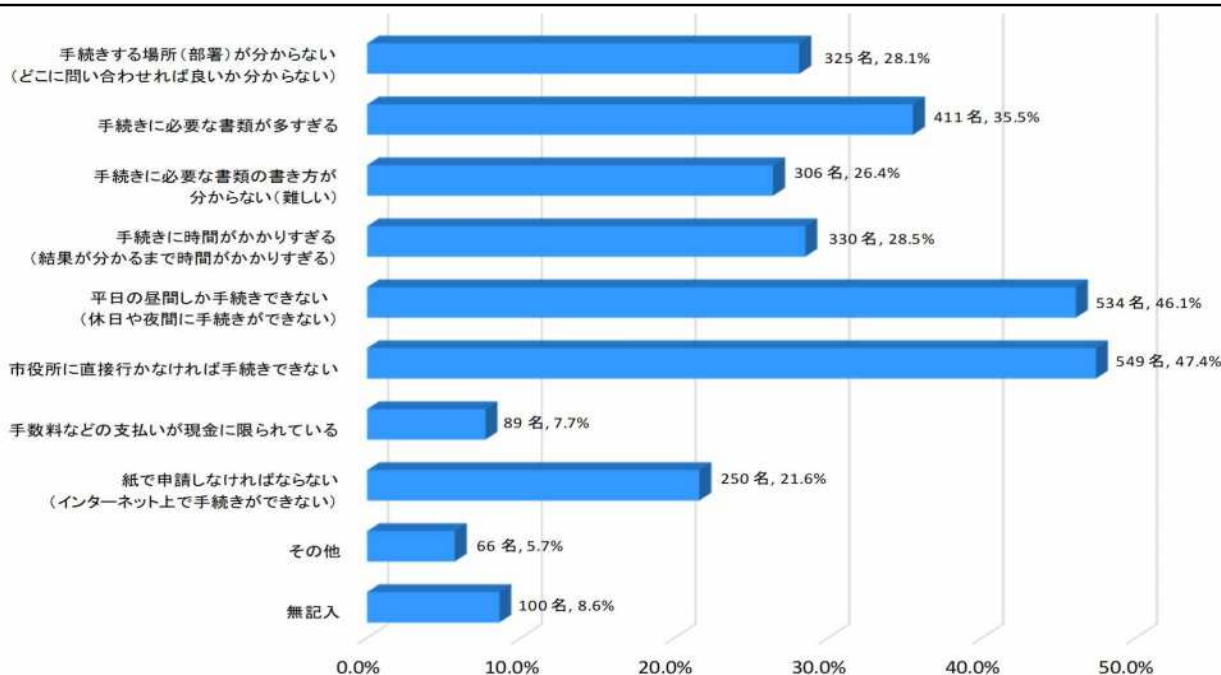
問6 1 スポーツ活動を盛んにするためには何が重要だと思いますか。1つ選んでください。



スポーツを盛んにするためには何が重要かについて、最も多かったのが「身近なところでスポーツに触れる機会」が43.4%で、次に多かったのが「幼少期から運動やスポーツに親しむ」が28.1%という結果でした。以上のことから、幼少期から身近なところで運動やスポーツに親しむ機会の重要性が伺えます。引き続き、スポーツ協会と連携し、イベント等についてより良い事業運営を目指して参ります。

## 12 デジタル社会に関することについて

問62 普段の生活に関わる市役所の手続きの中で、あなたが「不便」、「手間」、「面倒」だと感じていることは何ですか。(複数回答可)



問63 普段の生活に関わる市役所の手続きがどのように変われば、あなたは便利になったと感じますか。(回答例を参考に簡潔に記載ください。)

多くの自由記載回答をいただきました。主だった回答は以下のとおりです。

- ・日時に関係なく手続きできるようになってほしい。
- ・インターネットを使ってどこからでも手続きできるようになってほしい。
- ・見やすくて分かりやすい書類にしてほしい。
- ・書類を書かなくてもよい、ハンコを押さなくてもよい、添付書類も省略できる仕組みにしてほしい。
- ・1つの場所で手続きができるようになってほしい。
- ・市役所に来て迷わないような仕組みにしてほしい。
- ・職員の知識を向上してほしい。
- ・職員の接遇(態度)を改善してほしい。
- ・すべてデジタル化せず、職員とコミュニケーションをとれる仕組みも残してほしい。

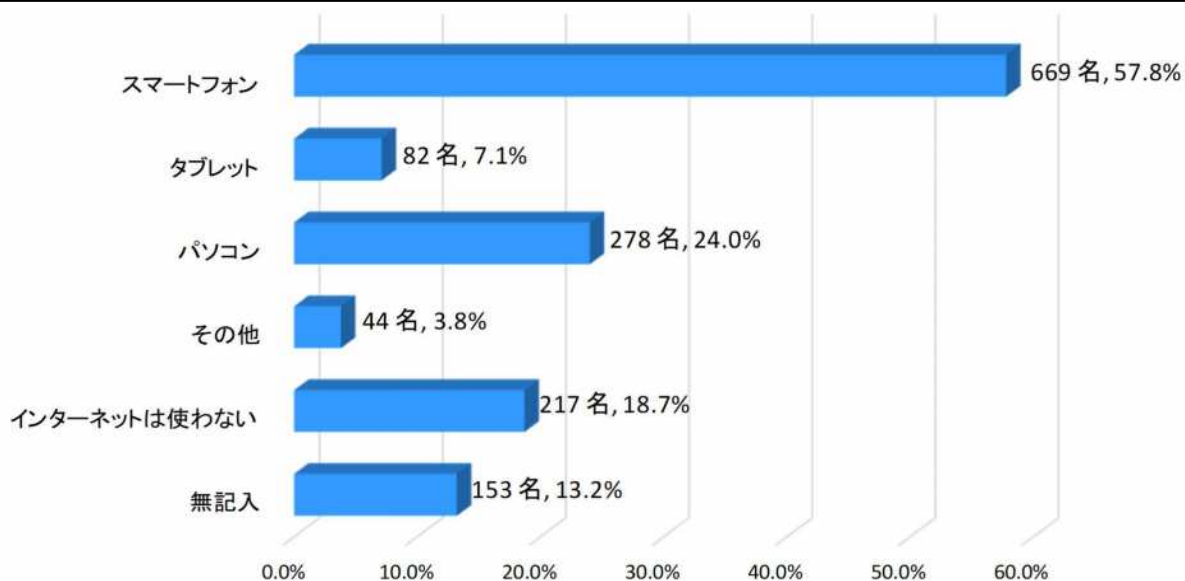
市民が普段の生活に関わる市役所の手続きで「不便」、「手間」、「面倒」だと感じていること、そして「こうなると便利だ」、「こういう風に変われればよいのに」と感じていることについて具体的に把握することができました。

回答の中には「インターネット」や「QRコード」など具体的なデジタル技術に言及した内容もありましたが、回答結果の要約を見ると、大半は市役所での手続きを「簡単、便利、分かりやすい」ものにしてほしいと望んでいることを読み取ることができます。

デジタル社会の実現のためには、デジタル技術を活用することが重要だと考えがちですが、アンケート結果からも、手続きが「簡単、便利、分かりやすい」ものにさえなれば、必ずしもデジタル技術を活用しなくても市民の満足度を上げることができると容易に想像できます。

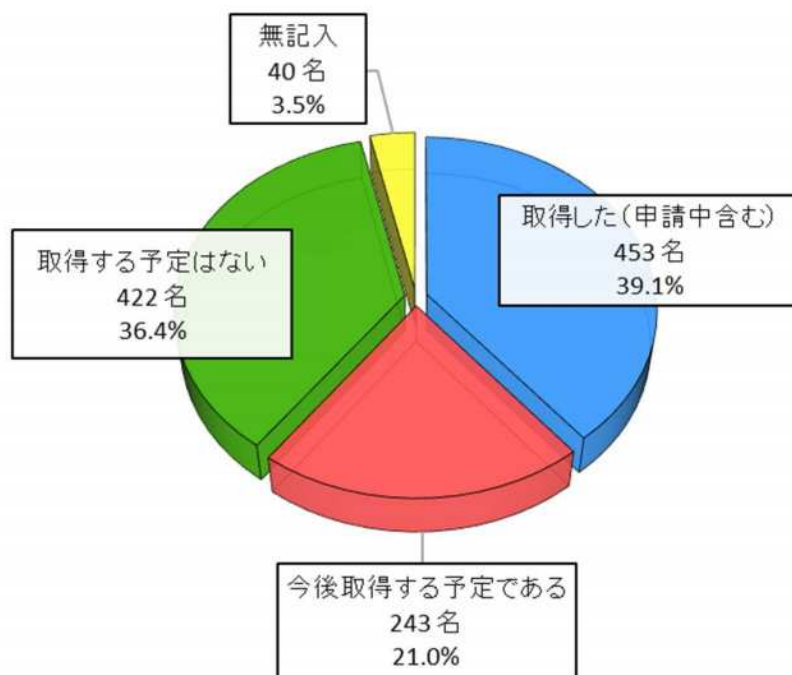
つまり、デジタル技術の活用も含め、市民が「何を」求めているかを的確に把握することが、デジタル社会を実現するための近道であると考えられます。

問6 4 普段の生活の中でインターネットを使って情報を入手したり買い物をしたりする際、あなたが使う機器を教えてください（複数回答可）

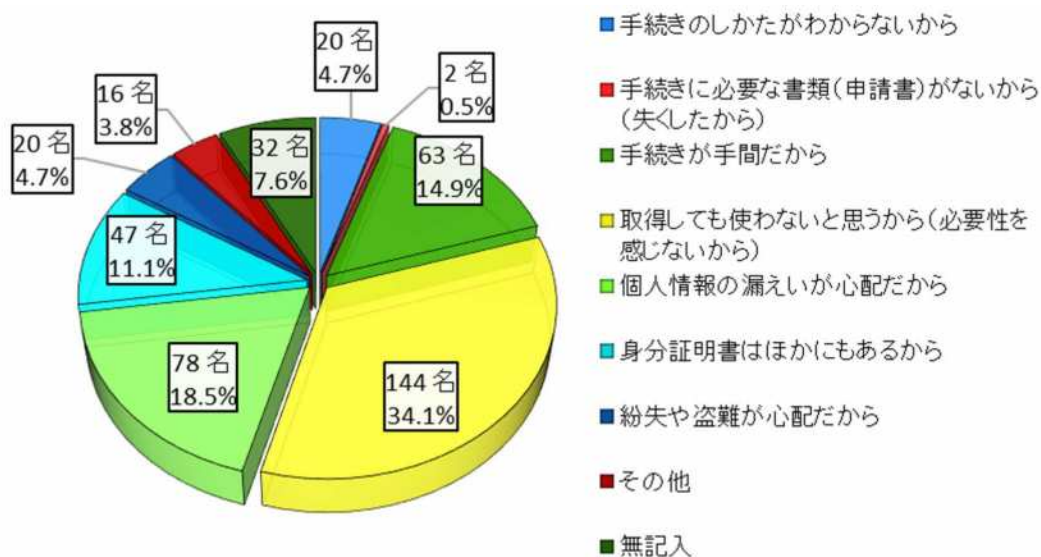


インターネットを使って情報を入手したり買い物をしたりする際に利用する機器の大半がスマートフォンであったものの、今後、デジタル技術を活用したサービスの検討にあたっては、様々な機器での利用を想定したサービス内容の検討が必要であると考えます。

問6 5 マイナンバーカードの取得について、あなたの状況を1つ選んでください。



問66 問65で「3. 取得する予定はない」を選んだ方にお聞きします。  
その理由として主なものを1つ選んでください。



令和4年度末までにマイナンバーカードが全国民に行き渡ることを目標に、本市でも引き続き普及促進に取り組む必要がありますが、マイナンバーカードを取得しない理由について「必要性を感じない」、「情報漏えいが心配」という声が多く挙がっていることから、今後の普及促進の取組にあたっては、マイナンバーカードの利便性に加え、情報漏えい対策がどうなっているかなど、きめ細かな説明を行っていく必要があると考えます。